横手市文化財調査報告第67集

遺跡詳細分布調査報告書

－農地中間管理機構関連ほ場整備事業等に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

２０２５．３

横手市教育委員会

序

横手市には史上名高い後三年合戦の関連遺跡をはじめとする600ヵ所以上の遺跡が確認されており、郷土の歴史と文化を築いてきた先人の文化遺産といえる埋蔵文化財包蔵地が数多く残されております。

また、横手市は横手盆地の中央に位置し、県内有数の米どころであります。現在は、農業経営基盤の強化と安定した経営体の育成のために、水田の区画拡大と用排水路網の整備が進められています。当教育委員会では地域開発と調和を図りながら、埋蔵文化財の保存と活用に取り組んでおります。

近年は、日本海側最北の古墳時代集落である一本杉遺跡、雄勝城と関わりが考えられる造山遺跡群、武士の館の初現期ともされる清原氏関連の国指定史跡大鳥井山遺跡附陣館遺跡、鎌倉時代の御家人である平賀氏に関連する館尻遺跡、津軽氏との関わりが明らかとなった金沢柵推定地金沢城跡など、各時代を通して、当時の秋田県、ひいては東北地方の歴史を語るうえで欠かせない遺跡の発見が相次ぎました。

本報告書は、農地中間管理機構関連ほ場整備事業（下吉田地区・みたけ地区）に伴い実施した遺跡詳細分布調査や、開発行為に伴う事前の試掘・確認調査の結果をまとめたものです。

本報告書が地域の歴史資料として広く活用されることを願いますとともに、多くの皆さまからご指導いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び本報告書の刊行にあたり、ご理解とご協力をいただきました地元住民の皆さまをはじめ関係各位に対し深く感謝申し上げます。

令和7年3月

横手市教育委員会
教育長　伊藤　孝俊

例 言

1. 本報告書は、農地中間管理機構関連ほ場整備事業及び開発行為に伴う事前の試掘・確認調査に係る埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本報告書は、令和6年度に文化庁及び秋田県教育委員会による補助を得て、横手市教育委員会が実施した市内遺跡詳細分布調査及び試掘・確認調査、分布踏査の成果を収めたものである。
3. 本報告書は、横手市教育委員会教育総務部文化財保護課横手市遺跡調査事務所が編集し、横手市教育委員会が発行した。
4. 本報告書は、藤原正大が執筆した。
5. 挿図・表・写真図版は藤原正大が作成した。
6. 発掘調査及び整理作業・報告書作成における実測図・写真などの記録類や出土品は、横手市遺跡調査事務所で保管している。
7. 発掘調査成果の一部については公表しているが、これらと本報告書の内容が異なる場合には、本報告書を優先する。
8. 本報告書に記載した地形図は横手市管内図で、横手市役所が国土地理院の承認を得て、同院発行の5千分の1地形図及び2万5千分の1地形図を使用したものである。
9. 挿図の縮尺については、各図ごとにスケールを付した。
10. 本報告書の体裁や記述方針は、文化庁文化財部記念物課発行の『発掘調査のてびき』(2010)に準拠している。
11. 遺跡の基本層序番号にはローマ数字を付した。
12. 基本層序、土器色調などの記載は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』(2015年版)に準拠した。
13. 本報告書作成にあたり、下記の機関・方々からご指導ご協力をいただいた。(敬称略・順不同)
事業区域内の地権者の皆様、秋田県平鹿地域振興局農林部農村整備課、秋田県雄物川筋土地改良区、秋田県南旭川水系土地改良区、秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室

目　次

序 …… 1
例言 …… 2
目次 …… 3

第1章　調査にいたる経緯 …… 4

Ⅰ　調査にいたる経緯 …… 4
Ⅱ　調査要項 …… 4

第2章　遺跡の立地と環境 …… 8

Ⅰ　地理的環境 …… 8
Ⅱ　歴史的環境 …… 8

第3章　調査の記録 …… 11

Ⅰ　横手市平鹿地域　下吉田地区の詳細分布調査 …… 11
Ⅱ　横手市横手地域　みたけ地区の詳細分布調査 …… 22
Ⅲ　横手市雄物川地域　沼館城跡の試掘・確認調査 …… 34
Ⅳ　平鹿町浅舞字諏訪野の分布調査 …… 41
Ⅴ　条里制跡の試掘・確認調査 …… 41
(1)住宅建築(赤坂字上後野) …… 41
(2)住宅建築(黒川字寺村) …… 42

報告書抄録 …… 44
写真図版 …… 45
奥付

挿図目次

図1　令和6年度遺跡詳細分布調査地点 …… 7
図2　下吉田地区周辺の地形分類 …… 14
図3　下吉田地区調査区位置及び周辺の遺跡分布 …… 15
図4　下吉田地区調査結果(1) …… 16
図5　下吉田地区調査結果(2) …… 17
図6　八柏村表遺跡の範囲 …… 18
図7　下吉田地区検出遺構確認図及び出土遺物 …… 19
図8　みたけ地区周辺の地形分類図 …… 25
図9　みたけ地区調査区位置及び周辺の遺跡分布 …… 26
図10　みたけ地区調査結果(1) …… 28
図11　みたけ地区調査結果(2) …… 29
図12　確認された埋蔵文化財包蔵地の範囲 …… 30
図13　みたけ地区調査区内の遺跡の概要 …… 31
図14　みたけ地区検出遺構確認図及び出土遺物 …… 32
図15　沼館城跡周辺の地形分類図 …… 36
図16　沼館城跡周辺の遺跡位置図 …… 37
図17　沼館城跡試掘トレンチ設定位置 …… 38
図18　沼館地区検出遺構確認図及び出土遺物 …… 39
図19　想定される遺構の残存状況 …… 40
図20　条里制跡における試掘・確認調査の位置 …… 43

表目次

表1　開発行為事前協議一覧 …… 5
表2　文化財保護法手続き一覧 …… 5・6
表3　下吉田地区出土遺物観察表 …… 19
表4　下吉田地区試掘・確認調査トレンチ一覧 …… 20
表5　金沢城の周辺遺跡一覧表 …… 27
表6　みたけ地区出土遺物観察表 …… 32
表7　みたけ地区試掘トレンチ一覧 …… 33
表8　沼館地区出土遺物観察表 …… 39

写真図版目次

写真図版1　下吉田地区の空中写真 …… 45
写真図版2　下吉田地区(1) …… 46
写真図版3　下吉田地区(2) …… 47
写真図版4　みたけ地区の空中写真 …… 48
写真図版5　みたけ地区 …… 49
写真図版6　沼館城跡(1) …… 50
写真図版7　沼館城跡(2) …… 51
写真図版8　その他民間開発 …… 52

第1章　調査にいたる経緯

Ⅰ　調査にいたる経緯【図1,表1～2】

横手市内では、水田の規模を拡大し区画を整えて農業経営の効率化を図るため、県営ほ場整備事業（農地中間管理機構関連ほ場整備事業）が実施されている。

横手市教育委員会は、令和7・8年度施工予定の農地中間管理機構関連ほ場整備事業区域内について、秋田県平鹿地域振興局より埋蔵文化財の詳細分布調査の依頼を受けた。この依頼について、秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室と協議を行い、国庫補助金・県補助金の交付を受け、埋蔵文化財の詳細分布調査を実施することとした。

このほか、令和6年度には、周知の埋蔵文化財包蔵地及び埋蔵文化財が所在する可能性がある土地に対する公共事業や民間の開発行為などについて、事前の事業照会と協議を行うとともに、文化財保護法第93条及び第94条に基づく工事立会を実施した。これらの概要については、表1と表2に記載する。

Ⅱ　調査要項

調 査 名　市内遺跡詳細分布調査

調査目的　開発予定地内に分布調査を実施して埋蔵文化財の有無を確認し、開発行為が埋蔵文化財包蔵地に与える影響を検討する。

調査対象面積　下吉田地区　42.1ha　みたけ地区　5.8ha

試 掘 面 積　下吉田地区　628.5㎡　みたけ地区　118.1㎡

その他民間開発　46.1㎡

調 査 期 間　下吉田地区　令和6年11月 5日～13日

みたけ地区　令和6年11月19日～21日

調査主体　横手市教育委員会

調査体制　教育長　伊藤孝俊　教育総務部長　佐藤耕樹　教育総務部次長　近江秀和

文化財保護課長　信太正樹　主幹　石田正明

埋蔵文化財係　上席副主幹兼埋蔵文化財係長　島田祐悦

主任　藤原正大（調査・整理作業担当）

発掘調査技師　田中郁美（整理作業担当）

佐藤康彦（現地調査・整理作業担当）

粟津ひろみ（整理作業担当）

発掘調査補助員（現地調査担当）　石橋龍美、斎藤清一、福原章

表1　開発行為事前協議一覧

番号	事業名	事業者名	所在地	該当遺跡名	協議年月日	協議内容
1	集合住宅	民間事業者	八幡字上長田	条里制跡	R6.4.4	法第93条の届出が必要となる
2	浄水場	横手市	雄物川町沼館字小中島	－	R6.4.12	埋蔵文化財包蔵地なし
3	自動車整備工場	民間事業者	十文字町梨木字羽場下	－	R6.7.1	埋蔵文化財包蔵地なし
4	宅地分譲地の造成	民間事業者	平鹿町浅舞字諏訪前	－	R6.7.10	未発見の埋蔵文化財包蔵地が存在する可能性があるため、試掘調査が望ましい。
5	雪捨場	民間事業者	横手町字大関越	条里制跡	R6.8.8	法第93条の届出が必要となる
6	一般分譲住宅	民間事業者	横手町字三ノ口	条里制跡	R6.8.9	法第93条の届出が必要となる
7	資材置場	民間事業者	平鹿町醍醐字沖野	－	R6.12.23	埋蔵文化財包蔵地なし

表2　文化財保護法手続き一覧

番号	事業名	事業者名	所在地	該当遺跡名	申請年月日	対応分類	指示内容	調査結果
1	住宅建築	個人	平鹿町浅舞字一関向	一関向遺跡	R6.4.2	93条	工事立会	遺構・遺物なし
2	道路拡幅	横手市	上八丁字明神西	条里制跡	R6.4.3	94条	工事立会	遺構・遺物なし
3	宅地造成	民間事業者	横手町字三ノ口	条里制跡	R6.4.9	93条	慎重工事	遺構・遺物なし
4	宅地造成	民間事業者	八幡字上長田	条里制跡	R6.4.9	93条	慎重工事	遺構・遺物なし
5	法面工	秋田県平鹿地域振興局	睦成字城付	朝草刈城跡 愛宕山遺跡	R6.4.10	94条	慎重工事	遺構・遺物なし
6	歩道設置	秋田県平鹿地域振興局	平鹿町下鍋倉字下都	鍋倉城跡	R6.4.10	94条	工事立会	遺構・遺物なし
7	県道拡幅	秋田県平鹿地域振興局	十文字町越前字坂三塔	坂三塔遺跡	R6.4.10	94条	工事立会	秋田県教育委員会による工事立会
8	住宅建築	個人	八幡字上長田	条里制跡	R6.4.19	93条	慎重工事	遺構・遺物なし
9	敷地造成 倉庫建築	民間事業者	横手町字四ノ口	条里制跡	R6.4.26	93条	工事立会	遺構・遺物なし
10	宅地造成	民間事業者	梅の木町	条里制跡	R6.4.26	93条	工事立会	遺構・遺物なし
11	道路工事	東日本高速道路(株)	山内土渕字虫内	虫内Ⅰ遺跡	R6.5.15	94条	発掘調査	秋田県教育委員会による発掘調査
12	宅地造成	個人	前郷字西ヶ坂	西ヶ坂遺跡	R6.5.29	93条	工事立会	遺構・遺物なし

番号	事業名	事業者名	所在地	該当遺跡名	申請年月日	対応分類	指示内容	調査結果
13	県道拡幅	秋田県平鹿地域振興局	本町	本町遺跡	R6.6.13	94条	発掘調査	秋田県教育委員会による発掘調査
14	携帯電話基地局撤去	民間事業者	横手町字大関越	条里制跡	R6.6.26	93条	慎重工事	遺構・遺物なし
15	水路設置	秋田県平鹿地域振興局	下境字日向	条里制跡	R6.7.24	94条	工事立会	遺構・遺物なし
16	住宅建築	個人	赤坂字上後野	条里制跡	R6.8.2	93条	工事立会	遺構・遺物なし
17	法面工事	秋田県平鹿地域振興局	睦成字城付	朝草刈城跡 愛宕山遺跡	R6.8.19	94条	慎重工事	遺構・遺物なし
18	下水道暗渠敷設	横手市	赤坂字伏山	条里制跡	R6.8.26	94条	工事立会	遺構・遺物なし
19	作業道敷設	森林組合	増田町狙半内字古家沢	北ヶ沢城	R6.9.2	93条	工事立会	遺構・遺物なし
20	下水道管渠敷設	横手市	三本柳字寺田	条里制跡	R6.9.6	94条	工事立会	遺構・遺物なし
21	住宅建築	個人	黒川字寺村	条里制跡	R6.9.11	93条	慎重工事	遺構・遺物なし
22	盛土工	東日本高速道路(株)	山内土渕字下虫内	下虫内遺跡	R6.9.11	94条	工事立会	秋田県教育委員会による工事立会
23	秋田自動車道付加車線工事用道路敷設	東日本高速道路(株)	山内平野沢字相野々	相野々遺跡	R6.9.11	94条	工事立会	秋田県教育委員会による工事立会
24	宅地造成	民間事業者	赤坂字上喜連森	条里制跡	R6.9.20	93条	慎重工事	遺構・遺物なし
25	秋田自動車道付加車線工事用道路敷設	民間事業者	山内筏字力石	力石Ⅱ遺跡	R6.9.20	94条	工事立会	秋田県教育委員会による工事立会
26	宅地造成	民間事業者	八幡字八幡	条里制跡	R6.9.27	93条	工事立会	遺構・遺物なし
27	雪捨場盛土工事排水路設置工事	民間事業者	横手町字大関越	条里制跡	R6.10.11	93条	工事立会	遺構・遺物なし
28	用水路工事	東北農政局旭川農業水利事務所	平鹿町浅舞字八幡小路	浅舞遺跡	R6.12.23	94条	工事立会	秋田県教育委員会による工事立会
29	住宅建築	個人	赤坂字甚吉森	城野岡館跡	R7.1.7	93条	慎重工事	遺構・遺物なし
30	住宅建築	個人	八幡字長者町	条里制跡	R7.1.31	93条	慎重工事	遺構・遺物なし
31	盛土工	東日本高速道路(株)	山内筏字大堤沢	大堤沢遺跡	R7.2.7	94条	未定	秋田県教育委員会による発掘調査
32	盛土工	東日本高速道路(株)	前郷字藤兵エ沢	藤兵エ沢遺跡	R7.2.7	94条	未定	秋田県教育委員会による発掘調査

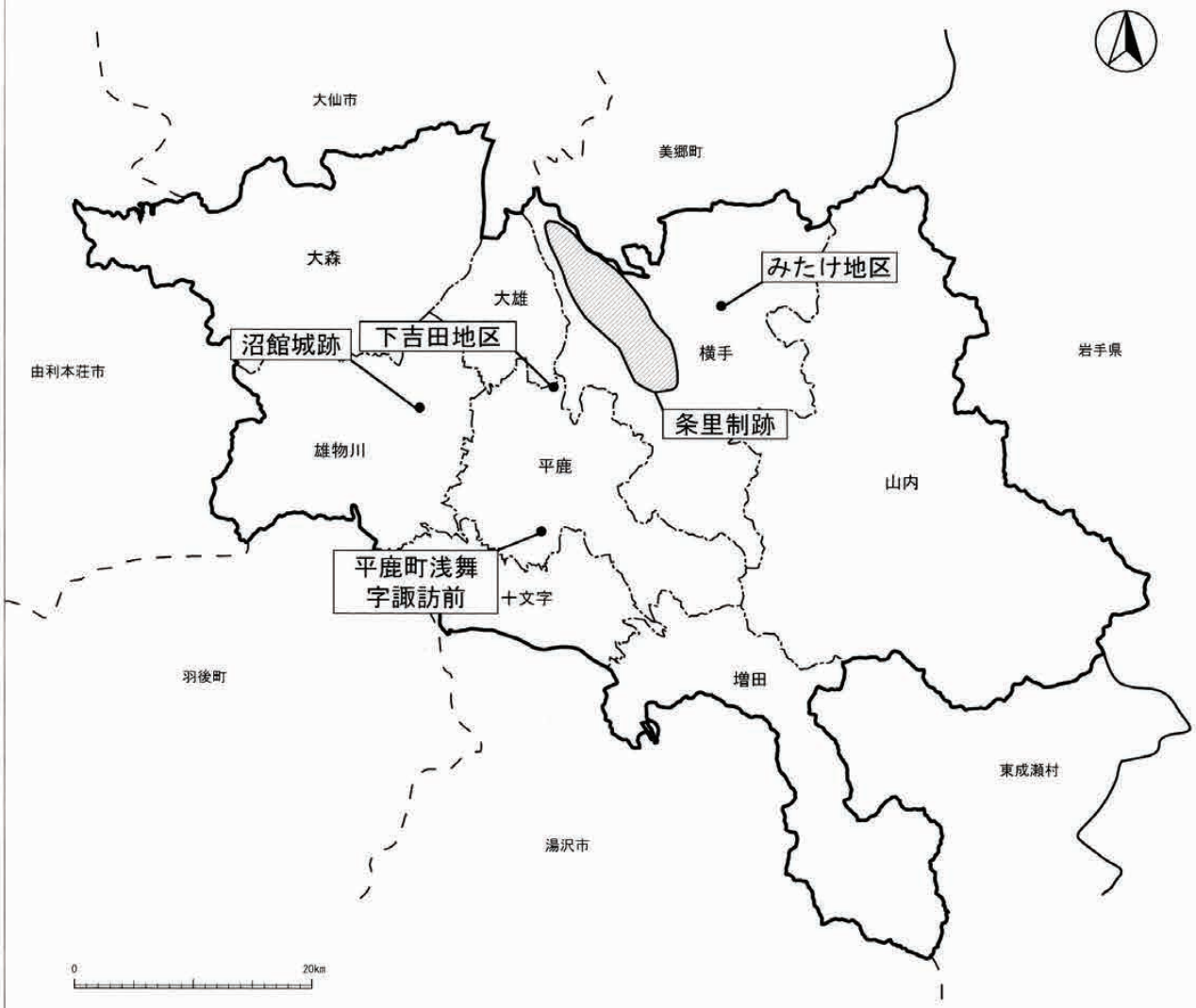


図１　令和６年度遺跡詳細分布調査地点

第2章　遺跡の立地と環境

Ⅰ　地理的環境

1. 概要

横手市は、秋田県の内陸南東部、東側の奥羽山脈、西側の出羽山地の間、雄物川水系の中・下流域に展開する南北およそ60km、東西およそ15kmの狭長な断層盆地である横手盆地中央に位置する。

横手市域は東西45.4km、南北35.2km、総面積692.80㎢、人口は令和6年12月末現在で80,765人である。北を大仙市・美郷町、南を湯沢市・羽後町・東成瀬村、西を由利本荘市、東を岩手県西和賀町に接する。東部には扇状地が並ぶ一方、西部には沖積地が開け、雄物川の大小支流が南東方向から北西方向に向かって蛇行しながら流れ、水田地帯の沖積地では短冊状の網状流路を形成し、雄物川に合流する。

また、横手市は古くから交通の要衝であり、旧羽州街道と並行して南北に縦貫する国道13号は、市の中心で東西に横断する国道107号と交差する。この付近に横手インターチェンジがあり、高速道路網の秋田自動車道と東北中央自動車道につながる。同じように、JR奥羽本線が縦貫し、JR北上線が東に延びる。

気候は、秋田県の内陸部がケッペンの気候分類法で亜寒帯に近い温帯湿潤気候に属し、盆地特有の四季の変化をみせる。夏季は暑いのに対して、冬季は寒冷で積雪が多く、最深積雪は例年1mを超える。

2. 遺跡の立地と周辺の地形

ここでは、県営ほ場整備事業が実施される下吉田地区、みたけ地区周辺を中心に地理的・歴史的環境について概観する。

今年度、県営ほ場整備事業に伴って事前の詳細分布調査を実施した下吉田地区は、旧成瀬川の河川浸食によって形成された砂礫段丘Ⅲに立地し、大戸川や大屋川をはじめとした雄物川支流の中小河川が北流している。付近には奥羽山脈から北西方向に分脈した標高約93mの中山丘陵が南北に連なり、猪岡地区で沖積地に没する。調査区一帯の土地利用は水田が主であり、昭和30年代に旧平鹿町一帯で耕地整理が実施され、水田区画や用排水路網が整備された。これにより、一帯が切土されており、河川氾濫などによって形成された微高地が削平され認識しにくくなっている。調査区はこのような環境のなかに立地している。

この一方で、みたけ地区については、更新世に形成された扇状地に分類される。調査区一帯の土地利用は水田が主であり、奥羽山脈の低位丘陵を切土することで水田面を形成している。当該地区についても昭和30～40年代に耕地整理が実施されており、現在の水田区画や用排水路網が整備された。

Ⅱ　歴史的環境

今回の調査区周辺には、前述の独立丘陵である中山丘陵があり、奈良時代後半から平安時代にかけては斜面を活かして窖窯が構築され、須恵器をはじめとする土器生産が活発に行われた。また、遺跡の立地する沖積地には、前述の大戸川などの河川が作り出した南北に狭長な微高地が点在し、縄文時代や古代を中心として長期間にわたって遺跡が形成されている。以下では発掘調査が実施された遺跡を中心として、市内の主だった遺跡を含め、概観する。

縄文時代は、大戸川周辺の微高地上で縄文時代後期・晩期の遺跡が確認されている。オホン清水A遺跡(03-86)では縄文時代後期後葉から晩期末葉までの312基の土坑墓と玉類・石棒・石剣・岩版などが出土した。瘤付土器や大洞B～A式土器が出土しており、長期間にわたって人間の活動痕跡が確認できる。また、オホン清水A遺跡の南約2kmに位置する宮下遺跡(03-94)では、複数の小群に分かれて大洞C式期の小規模な竪穴建物跡36軒が検出された。みたけ地区の周辺では、前通遺跡(03-53)で縄文時代晩期後半の大洞C2～A式期の集落域と捨て場が検出されている。

弥生時代は、縄文時代晩期に比べて遺跡数が激減し、市内全体でも18遺跡しか確認されていない。遺跡周辺には前述のオホン清水A遺跡と、中山丘陵北部に立地する上猪岡遺跡(03-115)がある。オホン清水A遺跡では弥生時代前期の砂沢式併行期の土器が出土している。また、上猪岡遺跡では、竪穴建物跡1軒と、弥生時代中期に属する壺・甕形土器が確認された。

古墳時代は市内で6遺跡が確認されており、県内では最も遺跡が集中している。これらの遺跡は沖積地の河川沿いにある微高地に立地する。一本杉遺跡(59-54)は古墳時代中期の集落遺跡で、竪穴建物跡5棟をはじめ、土師器・須恵器・管玉・紡錘車などが出土し、県内の古墳時代集落の様相が明らかとなっている。土師器は5世紀後半の所産と考えられ、その系譜が北陸に求められている。また、須恵器はTK208型式の有蓋杯2点、ハソウ1点が出土しており、これが県内で最も古い須恵器の出土例である。大戸川流域のオホン清水B遺跡(03-85)では古墳時代中期の竪穴建物跡が検出され、土師器・須恵器(TK208型式)が出土したほか、一本木遺跡(03-185)では包含層中から同様に古墳時代中期の土師器が一括で出土している。一方で田久保下遺跡(03-129)では、東北北部の続縄文文化に属する6世紀前半から7世紀前半の土坑墓8基が検出され、土師器・須恵器と共伴して柄付刀子や黒曜石が出土している。

飛鳥時代から奈良時代では、天平五年(733)に雄勝郡が、天平宝字三年(759)に平鹿郡が建郡され、さらに同年には雄勝城が造営されたことが『続日本紀』に記述されているが、その場所については明らかになっていない。しかし近年、県内で最も古い須恵器窯跡のひとつである末舘窯跡(60-26)が立地すること、東槻遺跡(60-120)・蝦夷塚古墳群(60-47)などの8世紀代の遺跡が密集することなどを根拠として、雄物川町造山周辺が擬定地として有力視されている。当該地周辺では、秋田県教育委員会や民間の調査組織である雄勝城・駅家研究会が継続的に発掘調査を実施している。大戸川流域でも7世紀後半から8世紀代にかけての集落遺跡が比較的多く確認されており、オホン清水A遺跡・宮下遺跡・宮東遺跡(03-100)、年子狐Ⅰ遺跡(59-38)、中藤根A遺跡(59-42)、下藤根Ⅰ遺跡(59-49)などがある。オホン清水A遺跡は、飛鳥時代の竪穴建物跡1棟とそこから延びる溝跡を検出し、搬入須恵器と在地土師器が共伴している。下藤根Ⅰ遺跡では、7世紀代の竪穴建物跡3棟が、中藤根A遺跡・年子狐Ⅰ遺跡では7世紀から8世紀後半にかけての竪穴建物跡が複数棟検出されている。中山丘陵では、8世紀中頃から須恵器窯跡である竹原窯跡(59-32)が操業を開始し、周辺の集落遺跡に製品を供給したほか、秋田城跡でも製品が出土している。

平安時代は市内で遺跡数が急増する時期である。未調査で土師器・須恵器が表採された遺跡が多いものの、ほ場整備事業などに伴う緊急発掘調査の実施によって須恵器窯跡などの生産遺跡、集落遺跡の資料が蓄積されている。

9世紀代に入ると、中山丘陵上において土器生産が活発化する。9世紀前半には竹原窯跡のほか、竹原窯跡の北側に隣接する上猪岡遺跡(竹原窯跡支群)、中山丘陵南側郷士館支群の郷士館窯跡(03-127)や富ヶ沢A～C窯跡(03-173～175)で須恵器生産が開始され、各年代を通して最も生産活動が盛行する時期に位置づけられる。また、この時期に須恵器窯に近接して土師器焼成に伴う平窯が

確認されるようになり、ロクロ土師器の生産も開始される。9世紀中頃には竹原窯跡での生産は確認されず、富ヶ沢C窯跡や田久保下遺跡などの郷土館支群で須恵器・ロクロ土師器生産が行われた。9世紀後半には大沼沢窯跡(03-172)を最後に中山丘陵での須恵器生産が確認されなくなり、郷土館D遺跡(03-167)ではロクロ土師器のみの生産へ移行している。

集落遺跡は、9世紀初頭から後半にかけて、下吉田地区の所在する大戸川周辺のオホン清水A遺跡や十文字遺跡(03-191)、手取清水遺跡(03-83)のほか、赤川沼頭遺跡(03-194)、柴崎遺跡(03-110)など、中山丘陵の東側沖積地にある微高地上においても確認されるようになる。この時期には竪穴建物跡がほとんど確認されず、いずれの遺跡も掘立柱建物跡が主体となる。手取清水遺跡は真北に軸線をもつ掘立柱建物跡とともに、河川跡からは須恵器・ロクロ土師器のほか、木簡・墨書土器が大量に出土した。これらの墨書土器には、「丸子部」・「津守部」・「日□(下ヵ)部継人」・「物部」・「蝮□部」・「嶋」などの人名・役職や、祭祀に関わる「占」などがある。木製品も斎串・馬形・鳥形などの祭祀遺物が多く、官衙遺跡に類似した様相を示している。柴崎遺跡は、平安時代前期を中心とする遺跡で、南北棟の大型掘立柱建物跡を中心とし、倉庫と考えられる側柱掘立柱建物跡も検出した。また、遺跡の消長が中山丘陵の須恵器生産と連動している点も注目される。みたけ地区の周辺では前述の前通遺跡で掘立柱建物跡を主体とする集落域が検出されているほか、十二牲B遺跡(03-6)で掘立柱建物跡と土器焼成遺構が検出されている。十二牲B遺跡については、横手市北部に隣接する仙北郡美郷町にかけて展開する須恵器生産地・金沢窯跡群との関連性が指摘されている。みたけ地区に隣接する上台A遺跡(03-28)では、狭小な調査区であったものの土器焼成遺構が複数基検出されている。

10世紀前半は竪穴建物跡が主体となる集落が急増するものの大規模な集落遺跡は確認されず、江原嶋1遺跡(64-1)や大見内遺跡(60-99)などで付属建物をもつ庇付建物や、倉庫をもつ集落遺跡が確認されている。その後10世紀中頃以降遺跡数が激減し、丘陵に立地が移り交通の要衝である河川や交通路沿いに在地有力者の居館と考えられる遺跡が確認される。清原氏の居館として知られる国指定史跡大鳥井山遺跡(03-64)がその一例である。また市教育委員会では、金沢城跡(03-5)などの後三年合戦関連遺跡の発掘調査を継続的に実施している。

中世前期には、手取清水遺跡で堀・塀を巡らせた地割の中に桁行20mの四面庇や二面庇の主殿級建物と付属屋が整然と配置された館跡が検出されている。遺物は13世紀から14世紀の中国産青磁と国産陶器・祭祀具・将棋駒の「桂馬」など、一般集落ではみられないものが出土している。当該期の横手は、尾張国を本拠とする松葉朝宗の次子惟泰が平鹿郡を本拠として平賀氏を苗字とし、平鹿郡地頭職を確立して治めていたとされる。手取清水遺跡は市内で確認される所領のなかの「塚堀」に関連するものと考えられる。そのほか三ツ栗柵木(03-79)、下八丁古館遺跡(03-81)も同様に平賀氏所領である「三樟」との関連性が考えられる。また平成30年に市教育委員会が発掘調査を実施した県指定史跡吉田城跡(59-28)近傍に立地する館尻遺跡(59-93)は、手取清水遺跡と同様の四面庇や二面庇のつく掘立柱建物跡や屋敷墓などが検出されており、平賀氏との関連が指摘される集落遺跡である。

中世後期は未調査の遺跡が多い。旧平鹿町やその周辺の中世城館は吉田城跡、樋ノ口城跡(59-57)、城野岡館跡(03-111)、八柏城跡(64-8)、郷土館跡(03-124)、猪岡館跡(03-105)、古城跡(59-29)、前郷館跡(03-132)、赤川館跡(03-103)、西野館跡(03-75)、黒川館跡(03-73)、真壁館跡(03-78)などがある。吉田城跡は戦国時代に横手盆地へ勢力を伸ばした小野寺輝道の隠居地と伝わり、東西120m、南北100mの平城で周囲を土塁と堀が巡る。下福田尻遺跡(59-100)・下福田東遺跡(59-99)の西約1.2kmの位置にある八柏城跡は小野寺氏重臣である八柏氏、西野館跡や赤川館跡、真壁館跡などもそれぞれ小野寺氏家臣の居館である可能性が指摘されている。

第3章　調査の記録

Ⅰ　横手市平鹿地域　下吉田地区の詳細分布調査

1. 立地と環境

下吉田地区は、JR奥羽本線横手駅から南西約4.7kmに位置し、現況は水田・畑地である。地形面は旧成瀬川によって形成された砂礫段丘Ⅲに分類される。調査区は、西端を秋田県道117号野崎十文字線が南北に走り、東端を大戸堰が北流するほか、南端は秋田県道48号横手東由利線が東西に走る。調査区は南西から北東にむかい緩やかに傾斜しているが、調査区の北端と隣接する調査区外の水田は1mほど比高差がある。調査区の総面積は42.1haである。なお、令和5年度には県営ほ場整備事業に伴って隣接する範囲の詳細分布調査を行っており、古代・中世の集落遺跡である下村遺跡を発見した。

調査前の調査区内には、周知の埋蔵文化財包蔵地は存在していなかった。

2. 調査の方法

現地踏査

調査区内の現況は前述のとおり水田・畑地であり、10月までは稲作が行われていたことから、稲刈り後の10月下旬から11月にかけて現地踏査を実施した。この現地踏査によって、調査区内の微地形の把握や遺物の表面採集を行った。

今年度の調査区は、大小の用水路が北流していること、市道・県道を挟むことから、バックホウの移動に支障が出る可能性が想定された。これを踏まえ、バックホウの搬入・搬出地点や走行経路の確認を入念に行った。また、次年度工事主体者である秋田県平鹿地域振興局農林部農村整備課や秋田県雄物川筋土地改良区との事前協議を実施し、調査に備えた。

試掘・確認調査

事前準備として、現地踏査や昭和23年アメリカ軍撮影の空中写真などをもとに、調査区一帯の地形や高低差を考慮しながら、試掘坑（トレンチ）を全体に均等に分布するように、事業者である秋田県平鹿地域振興局農林部農村整備課から提供を受けた現況計画平面図上に設定した。このとき、空中写真を活用し、地山層がどの程度削平されているかを想定する手がかりとした。

現地調査は事前の計画に基づき、トレンチによる試掘調査を実施した。トレンチは、バックホウのバケット幅（1.8m）、長さ3～4m程度の規模で、遺物や自然堆積層（地山層）の残存状況等を確認しながら層位的に掘り下げを行った。このトレンチは、遺構の検出状況に応じて適宜延長した。原則として自然堆積層（地山層）の上面まで掘り下げ、遺構・遺物の有無、遺存状況を確認した。掘り下げ後はトレンチの位置や土葬堆積状況を記録するとともに、基盤層と土層断面、遺物出土状況や遺構検出状況の写真撮影を行った。これらが終了した後、トレンチをバックホウで埋め戻した。

調査区内には、農道や水路が複数存在し、バックホウの移動による破損を避けるため、範囲確認調査は、分布調査で設定したトレンチで遺構・遺物が検出された際に、周辺でトレンチを追加で設定して実施した。これによって、遺跡の内容や範囲、遺構の密度などについて詳細に把握することを試みた。

3. 調査の結果

概要

試掘トレンチは計83ヵ所、調査面積は628.5㎡である。

調査区の中央列から西端にかけては水田床土・造成土が厚く堆積し、その直下には自然堆積層である湿地堆積層または細粒砂を含み、滞水のために還元状態にあるグライ土層が堆積していた。この層からは遺構・遺物は確認されなかった。また、この一帯の湿地堆積層には草葉や茎等の植物遺存体が混入しており、この一帯の土地利用は以上の土層堆積状況によって制限されていたと考えられ、埋蔵文化財包蔵地は存在しないと判断した。

一方で、調査区東端、大戸川左岸にあたる一帯においては、地山層であるシルト質粘土層が一部を除いて堆積しており、特に調査区北東端の一帯では遺構・遺構の広がりを確認した。以上の結果から新たに八柏村表遺跡を発見した。この範囲での遺構の広がりは、昭和23年の空中写真で看取される微高地の範囲に収まる。この一帯では、昭和30年代の耕地整理によって削平が地山層上面まで及んでおり、トレンチ土層断面には耕作土とシルト質粘土層との境に凹凸が確認されたが、一部で旧表土(漸移層)を確認したため、遺構の残存状況は比較的良いものと思われる。

基本層序

調査区内の土地利用は水田が多くを占めている。このため、上層に水田耕作土、水田床土としての造成土層が存在する。これらの下層に地山土である黄褐色粘土層または前述の湿地堆積層、シルト混じり粘土層などが確認される。

調査区内の基本層序は概ね以下のとおりである。

Ⅰ層:水田耕作土　人為堆積層　層厚12～30cm

粘性弱、しまり弱。昭和30年代の耕地整理の際に耕作土とされ、現在まで耕作された層で、水田耕作時の鋤入れ層である。常に耕転機による攪乱を受ける。これによって地山土粒(Ⅴ層土)を微量含む。層厚が薄いため、地山土層が直下に存在する場合には、小石や土器片、土器粒などが混じる場合がある。

Ⅱ層:造成土(水田床土)　人為堆積層　層厚0～45cm

粘性中、しまり中。Ⅰ層と同じく耕地整理の際に耕作土とされた客土を主体とする。この層には耕転機の鋤先が及ばない。小礫等を含む場合が多い。

Ⅲ層:旧表土(遺物包含層)　自然堆積層　層厚0～8cm

粘性やや弱、しまり弱。自然堆積層。大半のトレンチでは耕地整理の際の削平によって存在せず、調査区北東端の現況が畑の範囲にのみ残存する。トレンチによって残存状況に差異があるため、旧地形や削平の度合いが異なると考えられる。

Ⅳ層:湿地堆積層　自然堆積層　層厚0～40cm

粘性強、しまり中。調査区中央で見られる。滞水状態のため、草葉や茎などの植物遺存体を多く含み、粘土質で腐臭が強い。トレンチによっては鉄分の沈殿が著しい。

Ⅴ層:白色粘土層　自然堆積層　層厚0cm～

粘性強、しまりやや弱。本来黄褐色粘土層の下層に存在し、削平が著しい場合に耕作土・造成土層の下層で確認される。草葉や茎などの植物遺存体を含む。

Ⅵ層：白色シルト層　自然堆積層　層厚0cm～

粘性中、しまり弱。Ⅴ層と同質だがシルト主体であるため、水流のある環境下で堆積したと考えられる。

検出遺構と出土遺物

遺構は、調査区北東端の大戸堰左岸に設定した5ヵ所のトレンチから土坑1基、柱穴15基、溝跡2条、性格不明遺構1基を検出した。柱穴が検出されており、掘立柱建物跡が主体となる集落遺跡である可能性がある。出土遺物は、遺構を検出した範囲から須恵器、土師器、近世陶器、石器剥片が出土している。須恵器、土師器は平安時代の9世紀代、近世陶器は胎土目の唐津であるため、16世紀末から17世紀初頭の所産と考えられる。

4. 総括

新発見の遺跡の概要

以上の結果から、調査区北東端の大戸堰左岸の一帯に八柏村表遺跡を発見した。調査区内における遺跡の範囲は約9,000㎡である。遺跡の性格は集落跡、年代については縄文時代・古代（平安時代）・中世・近世の複数の時期にわたる。現況の工事計画では、新たな田面の調整による切土によって地下の遺跡へ影響を与える可能性があるため、埋蔵文化財包蔵地の取り扱いについて協議を要する。

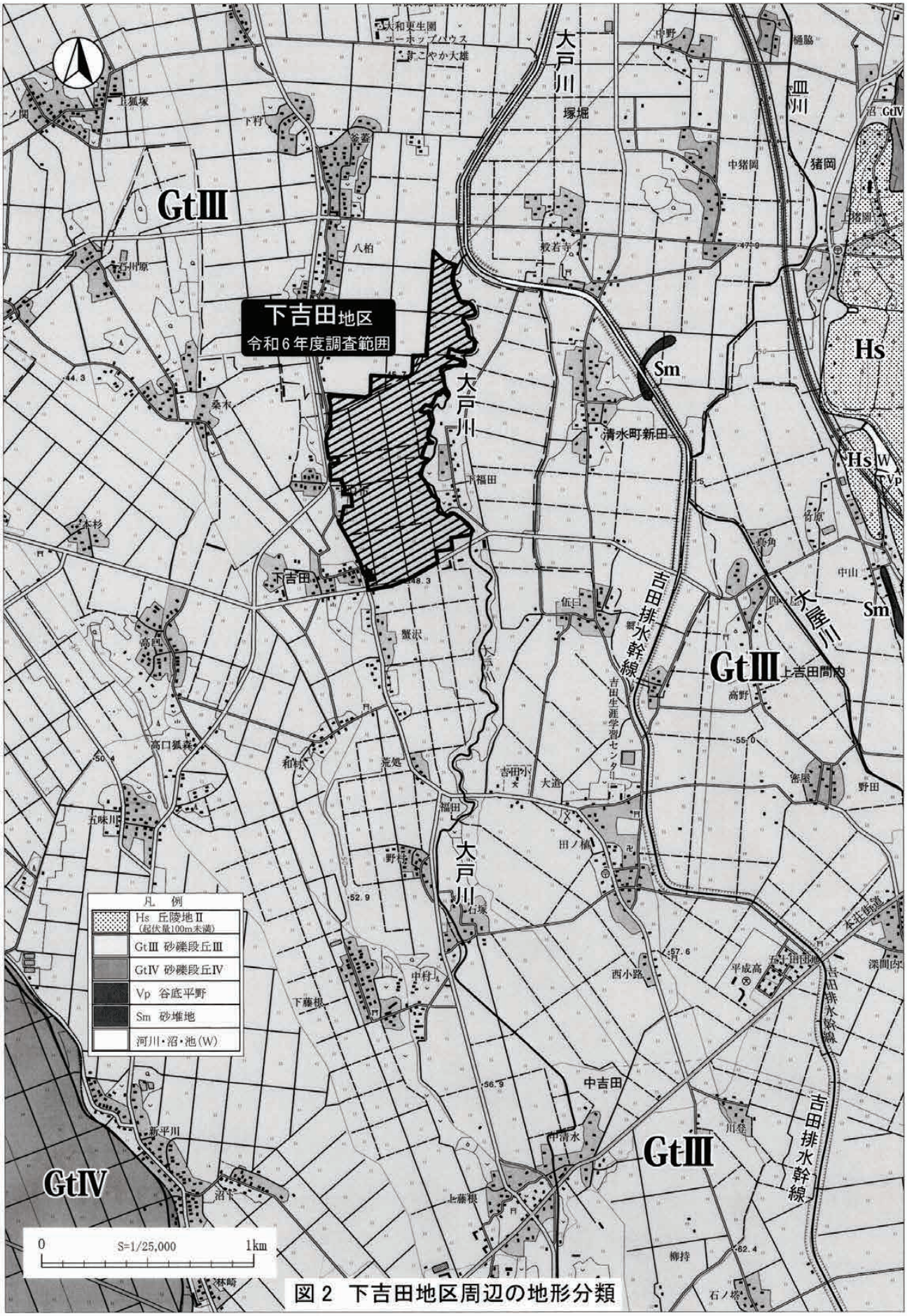


図２　下吉田地区周辺の地形分類

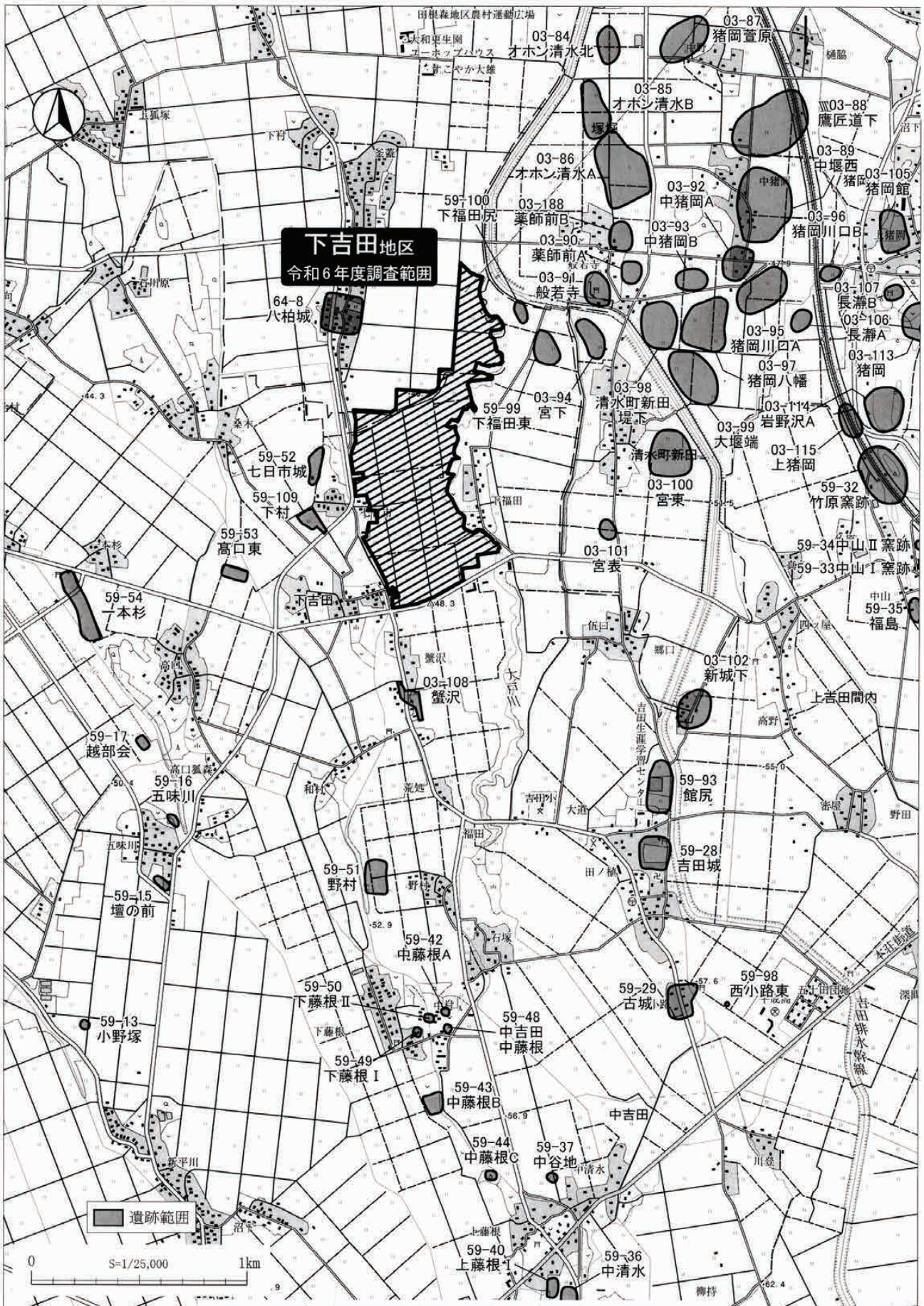


図3 下吉田地区調査区位置及び周辺の遺跡分布

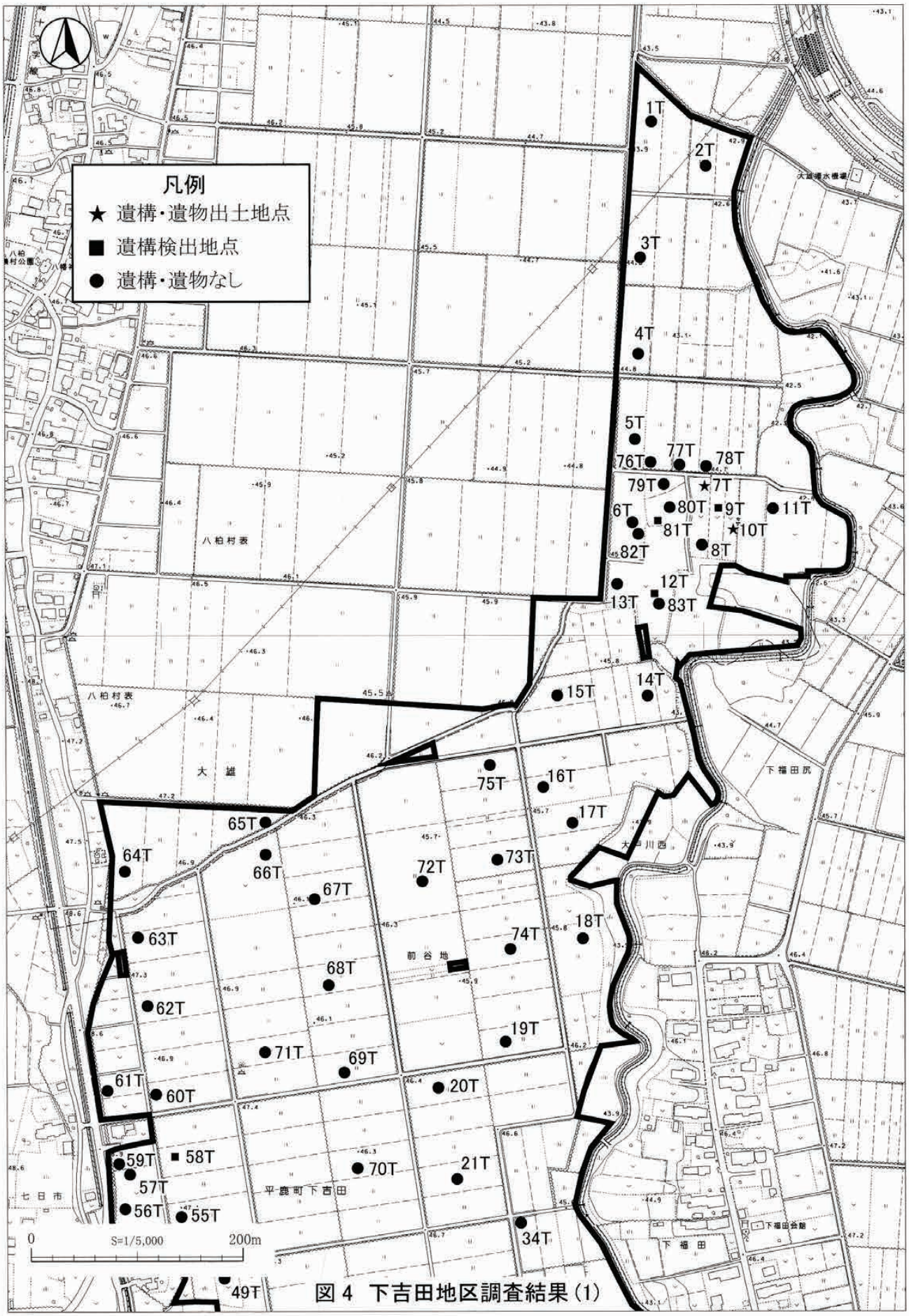


図 4 下吉田地区調査結果 (1)

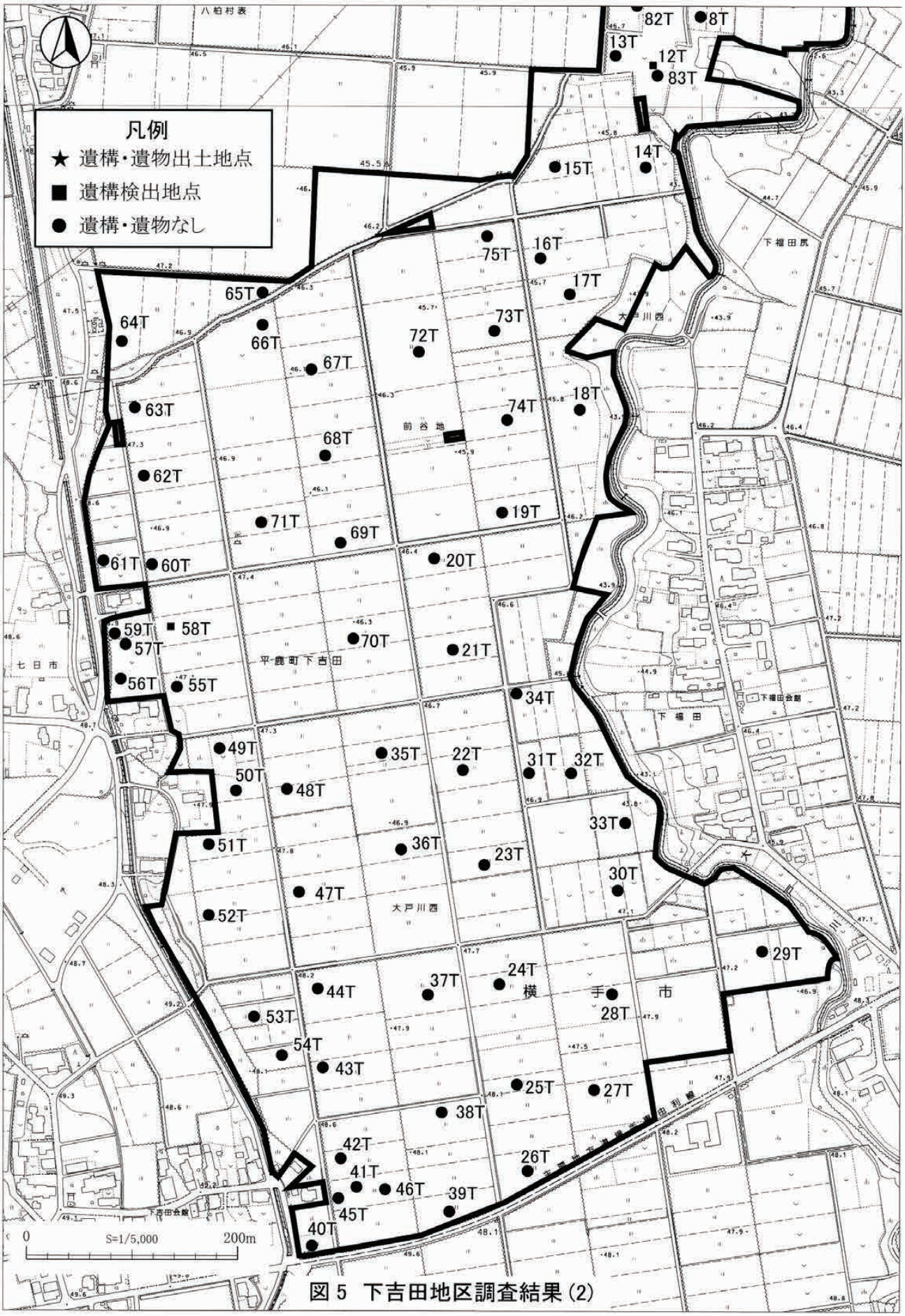


図 5　下吉田地区調査結果 (2)

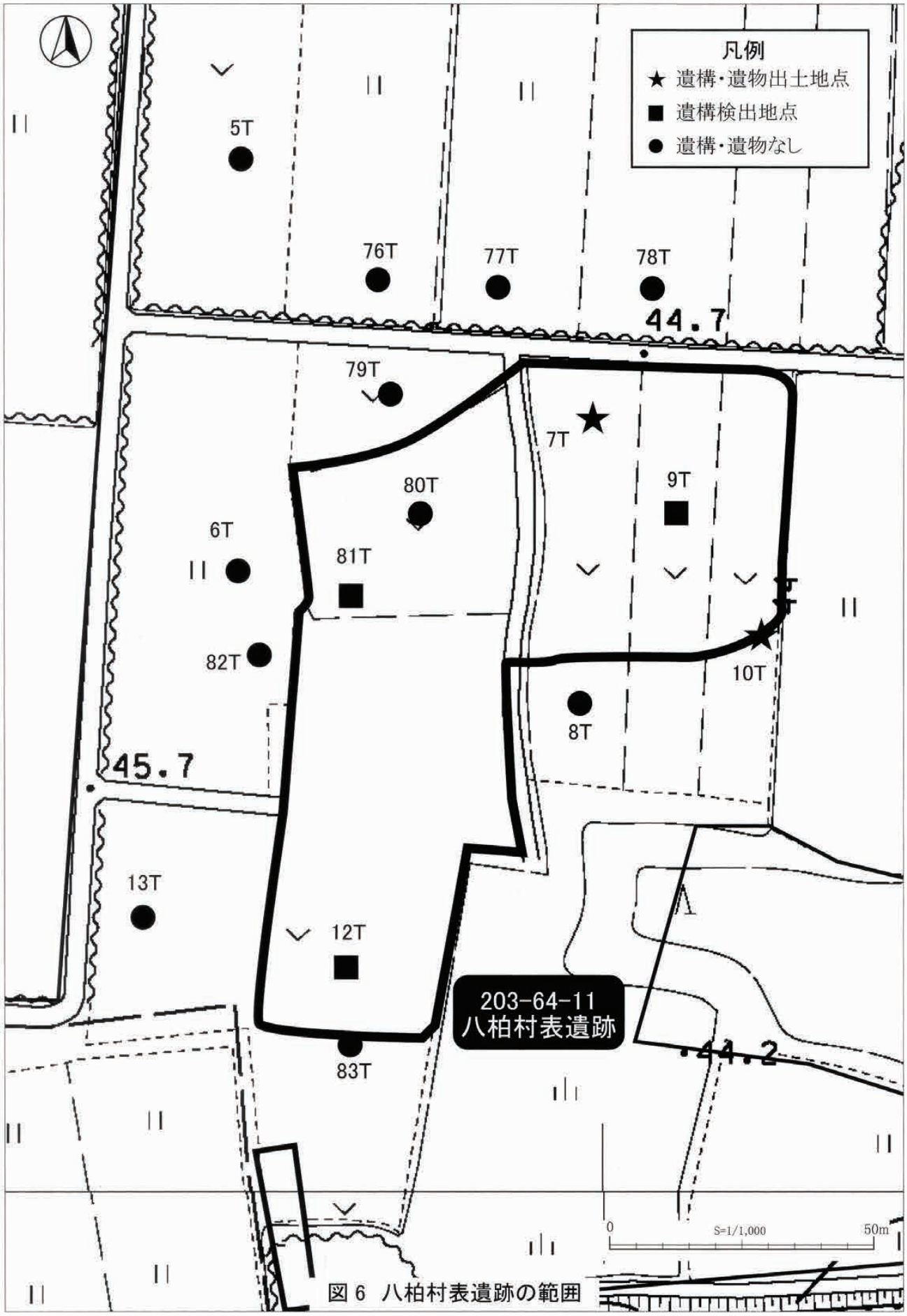


図 6 八柏村表遺跡の範囲

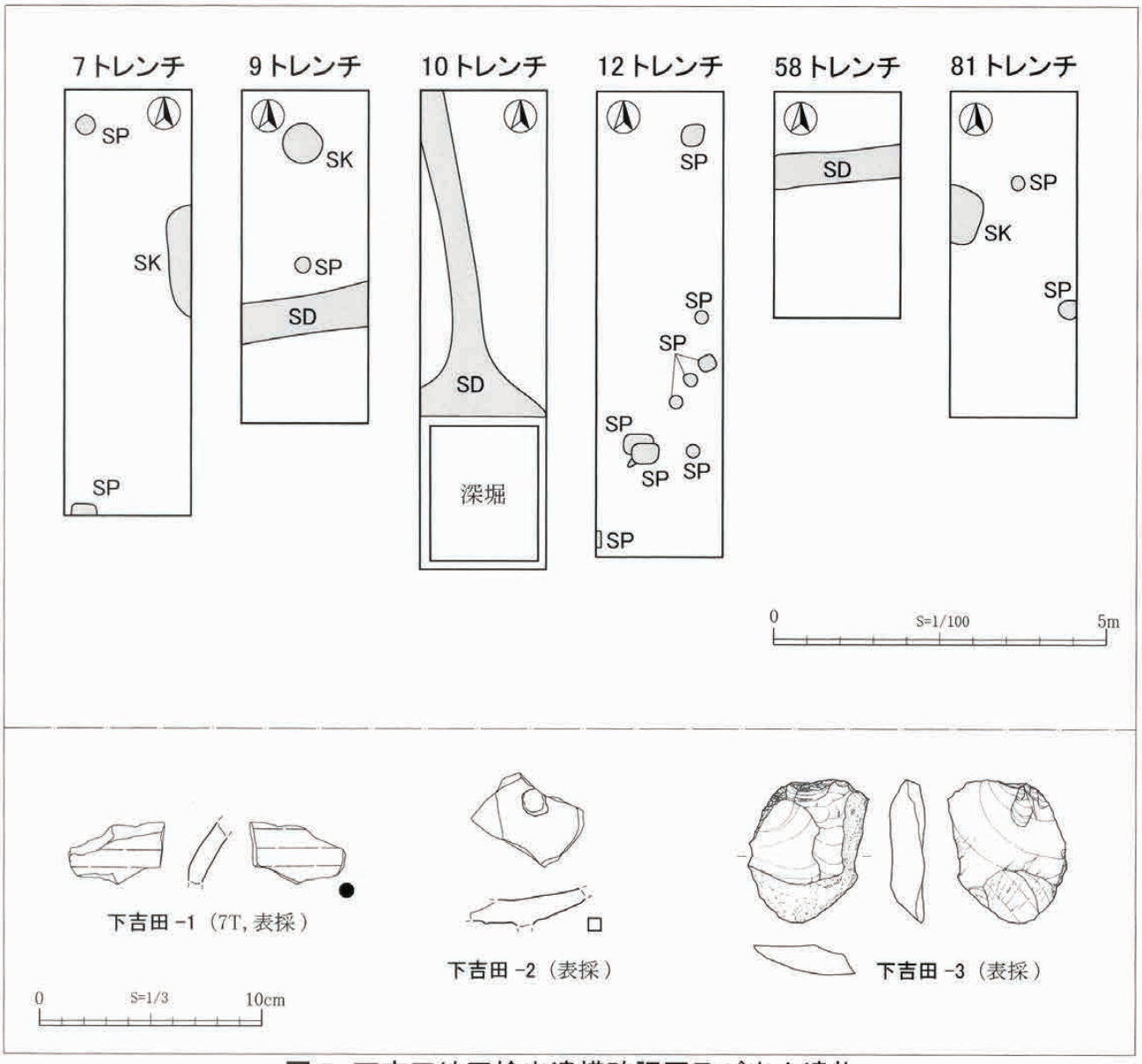


図 7　下吉田地区検出遺構確認図及び出土遺物

表3 下吉田地区出土遺物観察表

※(体)→体部・(頸)→頸部・(内)→内面・(外)→外面

遺物No.	トレンチ	層位	種別	器種	残存	調整			口径	底径	器高	色調	備考
						外面	内面	底面					
下吉田-1	7T	表採	須恵器	甕	(頸)破片	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	-	-	-	-	(外)灰白 (内)褐灰	
下吉田-2	-	表採	磁器	皿	(体)破片	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	-	-	-	-	(外)にぶい褐 (内)灰オリーブ	肥前 外面に釉付着、内面に胎土目
下吉田-3	7T	表採	石器	剥片	-	最大長 6.5	最大幅 5.4	最大厚 1.6	-	-	-	-	

表 4　下吉田地区試掘・確認調査トレンチ一覧

試掘トレンチ番号	調査日	試掘調査規模				土層堆積状況（cm）									検出遺構	出土遺物	備考
						人為堆積			自然堆積								
						Ⅰ	Ⅱ										
		幅（m）	長さ（m）	面積（m²）	深さ（m）	耕作土	造成土	計	旧表土	湿地堆積層	黄褐色粘土	黄褐色シルト混じり粘土	白色粘土	白色シルト			
1	11/5	1.9	4.0	7.6	0.43	15	13	28		10			5～				
2	11/5	1.9	2.9	5.5	0.40	15		15		20			5～				
3	11/5	1.9	2.3	4.4	0.24	15		15		9			0～				
4	11/5	1.9	5.8	11.0	0.15	15		15				0～					
5	11/5	1.9	2.6	4.9	0.15	15		15			0～						
6	11/5	1.9	7.2	13.7	0.15	15		15			0～						
7	11/5	1.9	6.4	12.2	0.12	12		12							柱穴2、土坑1	須恵器・近世陶器・石器剥片	
8	11/5	1.9	3.8	7.2	0.41	15	17	32		9			0～				
9	11/5	1.9	5.0	9.5	0.12	12		12			0～				柱穴1、土坑1、溝跡1		
10	11/5	1.9	7.2	13.7	0.15	15		15			0～				溝跡1	土師器・石器剥片	
11	11/5	1.9	3.5	6.7	0.60	15	45	60									
12	11/5	1.9	7.0	13.3	0.14	14		14			0～				柱穴9		
13	11/5	1.9	3.1	5.9	0.36	13	11	24		12～							酸化鉄沈殿
14	11/5	1.9	2.6	4.9	0.19	16		19			3～						
15	11/6	1.9	3.2	6.1	0.35	15		15		20				0～			植物遺存体を含む
16	11/6	1.9	3.2	6.1	0.24	16		16				8～					
17	11/6	1.9	4.0	7.6	0.22	16		16				6～					
18	11/6	1.9	3.8	7.2	0.20	15		15			5～						
19	11/6	1.9	3.4	6.5	0.25	15		15		10～							植物遺存体を含む
20	11/6	1.9	4.0	7.6	0.33	18		18		10			5～				
21	11/6	1.9	4.0	7.6	0.45	15		15		20	10～						
22	11/6	1.9	3.9	7.4	0.28	16		16		7		5～					腐臭あり
23	11/6	1.9	3.7	7.0	0.40	15		15		20	5～						腐臭あり
24	11/6	1.9	4.0	7.6	0.33	15		15		13	5～						
25	11/6	1.9	4.0	7.6	0.39	18		18		17	4～						植物遺存体多い
26	11/6	1.9	3.9	7.4	0.36	16		16		20	0～						腐臭あり
27	11/6	1.9	3.9	7.4	0.42	14		14		28～							腐臭あり
28	11/7	1.9	2.5	4.8	0.35	15		15		20							
29	11/7	1.9	2.6	4.9	0.34	15		15				19～					
30	11/7	1.9	2.5	4.8	0.39	17		17		12		10～					
31	11/8	1.9	4.9	9.3	0.23	20		20			3～						
32	11/8	1.9	4.8	9.1	0.20	20		20			0～						
33	11/8	1.9	4.4	8.4	0.23	20		20			0～						
34	11/8	1.9	2.4	4.6	0.32	15		15		12	5～						
35	11/8	1.9	2.5	4.8	0.35	20		20		10	5～						
36	11/8	1.9	2.7	5.1	0.35	15		15		20～							
37	11/8	1.9	2.7	5.1	0.40	15		15		15	10～						腐臭あり　植物遺存体を含む
38	11/8	1.9	2.9	5.5	0.42	15		15		17	10～						
39	11/8	1.9	2.5	4.8	0.37	20		20		12	5～						
40	11/8	1.9	1.7	3.2	0.15	15	0～	15									礫混じり造成土層
41	11/8	1.9	4.1	7.8	0.23	13		13				10～					
42	11/8	1.9	4.6	8.7	0.19	12		12				7					
43	11/8	1.9	4.4	8.4	0.32	16		16		16～							

試掘トレンチ番号	調査日	試掘調査規模				土層堆積状況（cm）									検出遺構	出土遺物	備考
						人為堆積			自然堆積								
		幅（m）	長さ（m）	面積（㎡）	深さ（m）	Ⅰ耕作土	Ⅱ造成土	計	旧表土	湿地堆積層	黄褐色粘土	黄褐色シルト混じり粘土	白色粘土	白色シルト			
44	11/8	1.9	2.7	5.1	0.22	15		15		7	0～						
45	11/11	1.9	2.4	4.6	0.62	18		18									
46	11/11	1.9	5.8	11.0	0.33	15		15		13	5～						
47	11/11	1.9	3.2	6.1	0.39	16		16									
48	11/11	1.9	2.4	4.6	0.22	17		17			5～						
49	11/11	1.9	3.6	6.8	0.23	20		20			3～						
50	11/11	1.9	2.7	5.1	0.25	20		20		5～	0～						植物遺存体を含む
51	11/11	1.9	3.1	5.9	0.55	20	25	45				10～					
52	11/11	1.9	2.5	4.8	0.48	15		15									腐臭あり
53	11/11	1.9	1.8	3.4	0.15	15		15		0～							
54	11/11	1.9	3.5	6.7	0.18	18		18			0～						
55	11/11	1.9	3.6	6.8	0.31	23		23			8～						
56	11/11	1.9	4.2	8.0	0.50	30		30		10							
57	11/11	1.9	2.8	5.3	0.68	28		28									
58	11/12	1.9	3.4	6.5	0.25	15		15							溝跡1		
59	11/12	1.9	1.6	3.0	0.17	17		17			0～						
60	11/12	1.9	2.1	4.0	0.20	20		20			0～						
61	11/12	1.9	5.5	10.5	0.22	17		17				5～					
62	11/12	1.9	5.1	9.7	0.33	23		23									
63	11/12	1.9	2.8	5.3	0.30	20		20									
64	11/12	1.9	2.7	5.1	0.20	15		15			5～						
65	11/12	1.9	4.3	8.2	0.26	20		20		6～							
66	11/12	1.9	2.6	4.9	0.49	28		28		15	6～						植物遺存体を含む
67	11/12	1.9	2.8	5.3	0.35	15		15									腐臭あり
68	11/12	1.9	2.3	4.4	0.38	18		18		20							
69	11/12	1.9	2.7	5.1	0.40	20		20									
70	11/12	1.9	2.3	4.4	0.42	16		16									腐臭あり
71	11/12	1.9	2.9	5.5	0.42	15		15		21	6～						
72	11/12	1.9	3.0	5.7	0.51	20		20		21							
73	11/12	1.9	4.2	8.0	0.19	12		12			7～						
74	11/12	1.9	2.4	4.6	0.40	24		24		13	3～						
75	11/12	3.7	4.7	17.4	0.15	15		15			0～						
76	11/12	1.9	10.3	19.6	0.25	20		20			5～						
77	11/13	1.9	12.0	22.8	0.20	20		20			0～						
78	11/13	1.9	8.6	16.3	0.20	15		15					5～				
79	11/13	1.9	5.7	10.8	0.27	16		16	8		3～						
80	11/13	1.9	7.4	14.1	0.30	25		25	5		0～						
81	11/13	1.9	4.9	9.3	0.21	21		21							柱穴2、土坑1		
82	11/13	1.9	4.6	8.7	0.26	21		21				5～					
83	11/13	1.9	6.4	12.2	0.22	22		22				0～					
調査面積		628.5 ㎡															

Ⅱ　横手市横手地域　みたけ地区の詳細分布調査

1. 立地と環境

みたけ地区は、JR奥羽本線横手駅から北約5.2km、同後三年駅から南東約2.8kmに位置し、現況は水田である。地形面は更新世に形成された扇状地に分類される。調査区は2つの範囲にわかれ、1つは三貫堰川が形成した沢目にあたる横手市金沢中野字白石沢地内の2.1ha（以下、調査区①）、もうひとつが蛭藻沼東側一帯にあたる横手市杉沢字谷地中地内の3.7ha（以下、調査区②）で、合計5.8haである。調査区は、いずれも東から西にかけて傾斜しており、特に調査区②では、調査区東端と西端を比較すると300mの距離で8.5mの比高差があり、勾配が大きい。これに加え、調査区②は南東から北西にかけて農道が横断しており、これを境に北東半分は標高が高く、南西半分は逆に低く、比高差がある。

調査前の調査区内には縄文時代・平安時代の集落遺跡として周知されている上台A遺跡が存在していた。上台A遺跡は、平成13年（2001）に今回の調査区に隣接して南北に走る広域農道建設に伴って発掘調査が行われており、調査の結果、竪穴建物跡、土器焼成遺構などが検出された。このほかに、過去に須恵器が表採され、平安時代の遺物包含地として周知されている杉沢谷地中A遺跡（03-27）が調査区南西に隣接する丘陵から調査区の北西にかけての範囲に存在していたが、その実態は不明であった。

2. 調査の方法

現地踏査

調査区内の現況は前述のとおり水田であり、10月までは稲作が行われていたことから、稲刈り後の10月下旬から11月にかけて現地踏査を実施した。この現地踏査によって、調査区内の微地形の把握や遺物の表面採集を行った。

今年度の調査区は、来年度も耕作が予定されていることから、バックホウの搬入・搬出地点や走行経路の確認を入念に行った。また、工事主体者である秋田県平鹿地域振興局農林部農村整備課や秋田県南旭川水系土地改良区との事前協議を複数回実施し、調査に備えた。

試掘・確認調査

事前準備として、現地踏査や昭和23年アメリカ軍撮影の空中写真などをもとに、調査区一帯の地形や高低差を考慮しながら、試掘坑（トレンチ）を全体に均等に分布するように、事業者である秋田県平鹿地域振興局農林部農村整備課から提供を受けた現況計画平面図上に設定した。このとき、空中写真を活用し、地山層がどの程度削平されているかを想定する手がかりとした。

現地調査は事前の計画に基づき、トレンチによる試掘調査を実施した。トレンチは、バックホウのバケット幅（1.6mまたは1.2m）、長さ3～4m程度の規模で、遺物や自然堆積層（地山層）の残存状況等を確認しながら層位的に掘り下げを行った。このトレンチは、遺構の検出状況に応じて適宜延長した。原則として自然堆積層（地山層）の上面まで掘り下げ、遺構・遺物の有無、遺存状況を確認した。掘り下げ後はトレンチの位置や土層堆積状況を記録するとともに、地山層と土層断面、遺物出土状況や遺構検出状況の写真撮影を行った。これらが終了した後、トレンチをバックホウで埋め戻した。

調査区内には、農道や水路が複数存在し、バックホウの移動による破損を避けるため、範囲確認調査は、分布調査で設定したトレンチで遺構・遺物が検出された際に、周辺でトレンチを追加で設定して実施した。これによって、遺跡の内容や範囲、遺構の密度などについて詳細に把握することを試みた。

3. 調査の結果

概要

試掘トレンチは計26ヵ所、調査面積は118.1㎡である。

調査区①については、水田床土・造成土が厚く堆積し、その直下には自然堆積層である湿地堆積層または細粒砂を含み、滞水のために還元状態にあるグライ土層が堆積していた。この層からは遺構・遺物は確認されなかった。また、この一帯の湿地堆積層には草葉や茎等の植物遺存体や風化礫が混入しており、この一帯の土地利用は以上の土層堆積状況によって制限されていたと考えられ、埋蔵文化財包蔵地は存在しないと判断した。

一方で、調査区②では調査区北西、蛭藻沼東側の一角で遺構・遺物の広がりを確認した。周知の埋蔵文化財包蔵地であった上台A遺跡は調査区内に遺跡範囲が及んでいなかった。杉沢谷地中A遺跡については、一部では先に述べた遺構・遺物の広がりと重複していたが、調査区南西では広がりが確認できず、湿地堆積層が存在するのみであり、既往の遺跡範囲と実際の遺跡範囲に齟齬があることが判明した。現在調査区を横断するように走る農道より南西側に、蛭藻沼につながる流路が存在したと考えられる。以上の結果から、新たに遺構・遺物の広がりを確認した範囲を杉沢谷地中C遺跡(03-198)とし、上台A遺跡、杉沢谷地中A遺跡の遺跡範囲を変更するのが妥当であると判断する。

基本層序

調査区内の土地利用は水田が多くを占めている。このため、上層に水田耕作土、水田床土としての造成土層が存在する。これらの下層に地山土である黄褐色粘土層または前述の湿地堆積層、シルト混じり粘土層などが確認される。

調査区内の基本層序は概ね以下のとおりである。

Ⅰ層:水田耕作土　人為堆積層　層厚5～36cm

粘性弱、しまり弱。昭和30年代の耕地整理の際に耕作土とされ、現在まで耕作された層で、水田耕作時の鋤入れ層である。常に耕転機による攪乱を受ける。これによって地山土粒(Ⅴ層土)を微量含む。層厚が薄いため、地山土層が直下に存在する場合には、小石や土器片、土器粒などが混じることがある。

Ⅱ層:造成土(水田床土)　人為堆積層　層厚0～30cm

粘性中、しまり中。Ⅰ層と同じく耕地整理の際に耕作土とされた客土を主体とする。この層には耕転機の鋤先が及ばない。小礫等を含む場合が多い。

Ⅲ層:湿地堆積層　自然堆積層　層厚0～33cm

粘性強、しまり中。調査区中央で見られる。滞水状態のため、草葉や茎などの植物遺存体を多く含み、粘土質で腐臭が強い。トレンチによっては鉄分の沈殿が著しい場合や、風化礫を多く含むことがある。

Ⅳ層:黄褐色粘土層　自然堆積層　層厚0cm～

粘性中、しまり強。調査区全体で見られる。遺構確認面であるが、調査区②の北西ではこの層が失われ、下層(Ⅵ層)が遺構確認面である場合がある。

Ⅴ層:黄褐色シルト混じり粘土層　自然堆積層　層厚0cm～

粘性中、しまり強。自然堆積層。基本的にⅣ層と同質だが、シルトが混じるため、比較的水流のある環境下で堆積したと考えられる。

Ⅵ層：礫混じり粘土層　自然堆積層　層厚0cm～

粘性強、しまりやや強。本来Ⅳ・Ⅴ層の下層に存在するが、前述の削平が著しい場合に耕作土・造成土層の下層で確認される。小礫を多く含み、扇状地が形成され始めた初期に堆積したと考えられる。

Ⅶ層：黄褐色シルト混じり砂層　自然堆積層　層厚0cm～

粘性中、しまり弱。調査区①のみで確認される。三貫堰川の運搬作用で堆積したと考えられる。

検出遺構と出土遺物

遺構は、調査区北西、蛭藻沼東側の一帯に設定した4ヵ所のトレンチから土坑1基、柱穴3基を検出した。土坑は、隣接する上台A遺跡の既往の調査で確認されている土器焼成遺構である可能性がある。出土遺物は、遺構を検出した範囲と概ね重なる範囲から土師器が出土している。年代は、平安時代の9世紀末から10世紀初頭頃に帰属するものと思われる。

遺跡範囲の変更・新発見の遺跡の概要

以上の結果から、調査区内にまで遺跡範囲が及んでいた上台A遺跡、杉沢谷地中A遺跡については、遺跡範囲の変更を要することが判明した。上台A遺跡については、先に述べた既往の調査範囲と今回の調査区の間で比高差があり、遺構・遺物も確認されなかったことから、調査区内に遺跡範囲が及ばないと判断される。

杉沢谷地中A遺跡については、一部で今回確認された遺構・遺物の広がりと重複するものの、12トレンチから15トレンチで湿地堆積層が確認されていることから、調査区②を横断する農道より南西側に蛭藻沼へ向かって流れる沢ないしは湿地が形成されていたと考えられる。以上から、杉沢谷地中A遺跡の範囲は沢ないしは湿地を境に2つに分かれると判断するのが妥当である。この調査結果を踏まえ、従前周知されていた杉沢谷地中A遺跡の範囲は調査区の南西に隣接する小丘陵一帯のみとし、今回確認した遺構・遺物の広がる範囲については、杉沢谷地中C遺跡として新発見の遺跡として登録する。調査区内における杉沢谷地中C遺跡の範囲は約7,000㎡である。遺跡の性格は集落跡、年代については古代（平安時代）が主体となると考えられる。当該調査区の範囲は、令和8年度に県営ほ場整備事業が計画されているが、現況の工事計画では、新たな田面の調整による切土によって地下の遺跡へ影響を与える可能性があるため、埋蔵文化財包蔵地の取り扱いについて協議を要する。

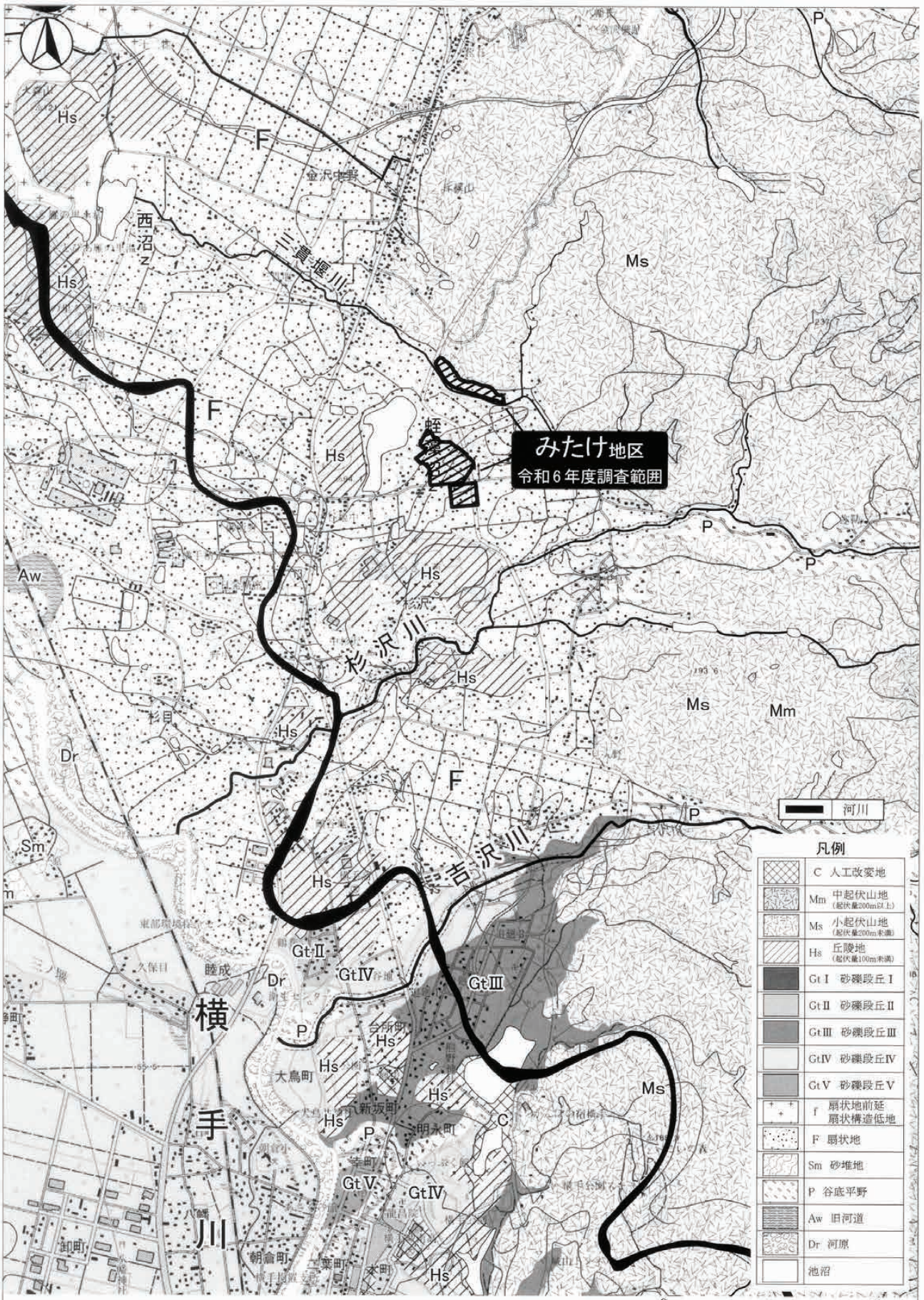


図８ みたけ地区周辺の地形分類図

図9 みたけ地区調査区位置及び周辺の遺跡分布

表 5 金沢城の周辺遺跡一覧表

遺跡番号	遺跡名	種別
203-03-001	獺袋経塚	その他の遺跡
203-03-002	老姥山経塚	その他の遺跡
203-03-003	直坂経塚	その他の遺跡
203-03-004	閑居長根経塚群	その他の遺跡
203-03-005	金沢城	館跡
203-03-006	十二牲B	生産遺跡
203-03-007	十二牲A	遺物包含地
203-03-008	十二牲A窯跡	生産遺跡
203-03-009	十二牲B窯跡	生産遺跡
203-03-010	下矢来沢A	遺物包含地
203-03-011	下矢来沢窯跡	生産遺跡
203-03-012	下矢来沢B	遺物包含地
203-03-013	保土森窯跡	生産遺跡
203-03-014	保土森	集落跡
203-03-015	保土森火葬墓	その他の墓
203-03-018	北御所野A	遺物包含地
203-03-019	南御所野	遺物包含地
203-03-020	金沢柵木Ⅰ	城柵
203-03-021	金沢柵木Ⅱ	城柵
203-03-022	物見窯跡	生産遺跡
203-03-023	姥ヶ沢窯跡	生産遺跡
203-03-024	杉沢城	館跡
203-03-025	鞍石沢	遺物包含地
203-03-026	杉沢谷地中B	遺物包含地
203-03-027	杉沢谷地中A	遺物包含地
203-03-028	上台A	集落跡
203-03-029	金沢柵木Ⅲ	城柵
203-03-030	上台B	遺物包含地
203-03-031	上台C	遺物包含地
203-03-032	杉沢中島A	遺物包含地
203-03-033	杉沢中島B	遺物包含地
203-03-034	杉沢中島C	遺物包含地
203-03-035	狼ノ沢A	遺物包含地
203-03-036	見入野天狗沢A	遺物包含地
203-03-037	見入野天狗沢B	遺物包含地
203-03-038	杉沢糠塚B	遺物包含地
203-03-041	長者森	遺物包含地

遺跡番号	遺跡名	種別
203-03-042	杉沢糠塚A	遺物包含地
203-03-043	杉沢吉沢A	遺物包含地
203-03-044	吉沢上台B	遺物包含地
203-03-045	吉沢上台A	遺物包含地
203-03-046	中杉沢A	集落跡
203-03-047	狼ノ沢B	遺物包含地
203-03-048	狼ノ沢C	遺物包含地
203-03-049	中杉沢B	遺物包含地
203-03-050	中杉沢C	遺物包含地
203-03-051	村後	遺物包含地
203-03-052	野中	遺物包含地
203-03-053	前通	遺物包含地
203-03-054	杉目七日市	遺物包含地
203-03-055	下久保目	遺物包含地
203-03-056	鳥小山	遺物包含地
203-03-057	睦成七日市塚群	その他の遺跡
203-03-058	睦成鶴谷地	遺物包含地
203-03-059	鶴巻	遺物包含地
203-03-060	杉沢吉沢B	遺物包含地
203-03-061	長田	遺物包含地
203-03-062	台処館	館跡
203-03-063	台所館	遺物包含地
203-03-064	大鳥井柵 (大鳥井山)	館跡
203-03-066	小吉山塚群	その他の遺跡
203-03-130	条里制跡	その他の遺跡
203-03-182	北野添B	遺物包含地
203-03-183	下矢来沢C	遺物包含地
203-03-184	北御所野	遺物包含地
203-03-190	陣館	館跡
434-57-004	飯詰城	館跡
434-57-005	東山本	経塚
434-57-006	飯詰竪穴群	竪穴群
434-57-007	東西法寺	遺物包含地
434-57-018	南谷地	遺物包含地
434-57-019	南西法寺	遺物包含地
434-57-022	長岡森館	城館跡

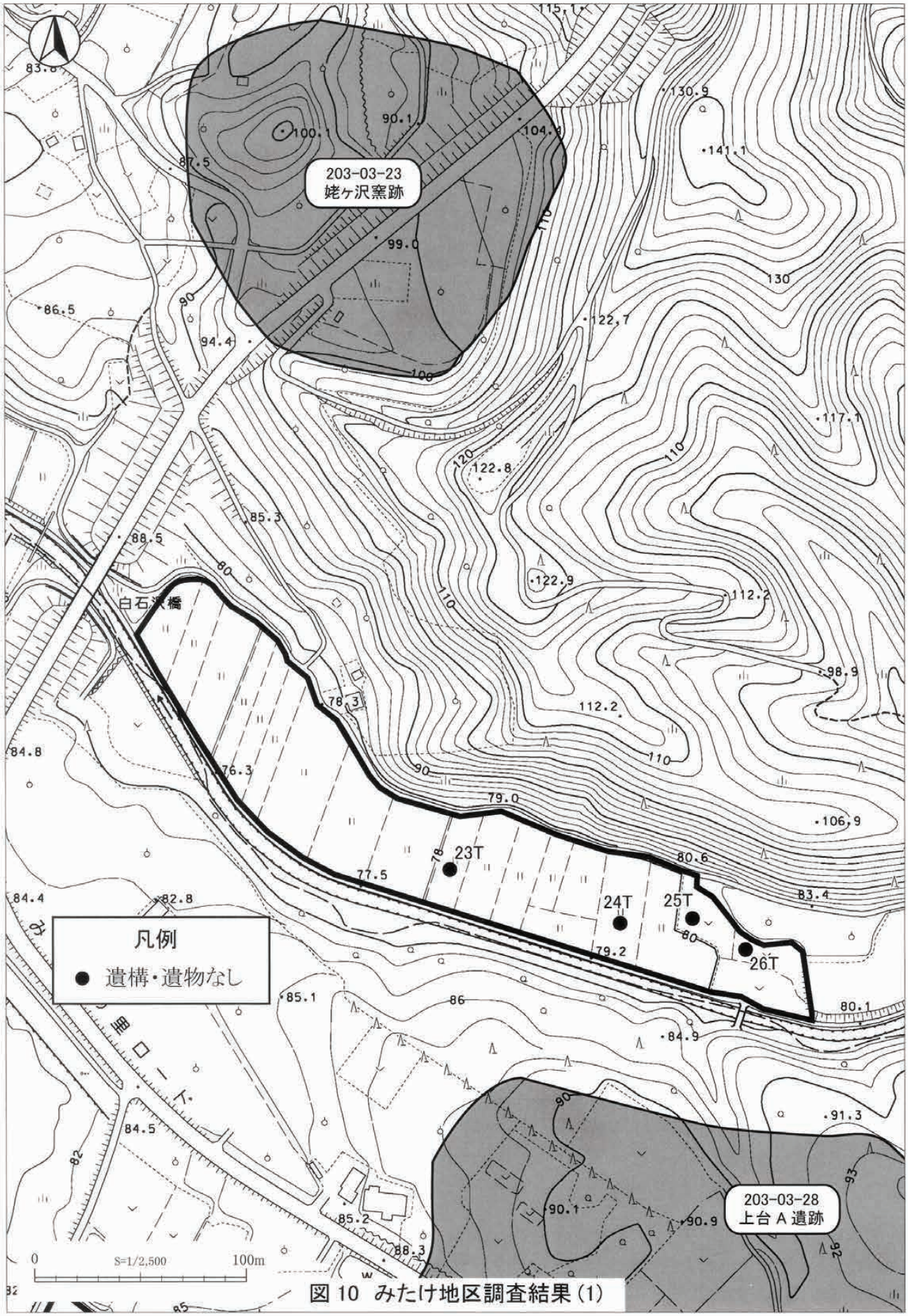


図 10 みたけ地区調査結果 (1)

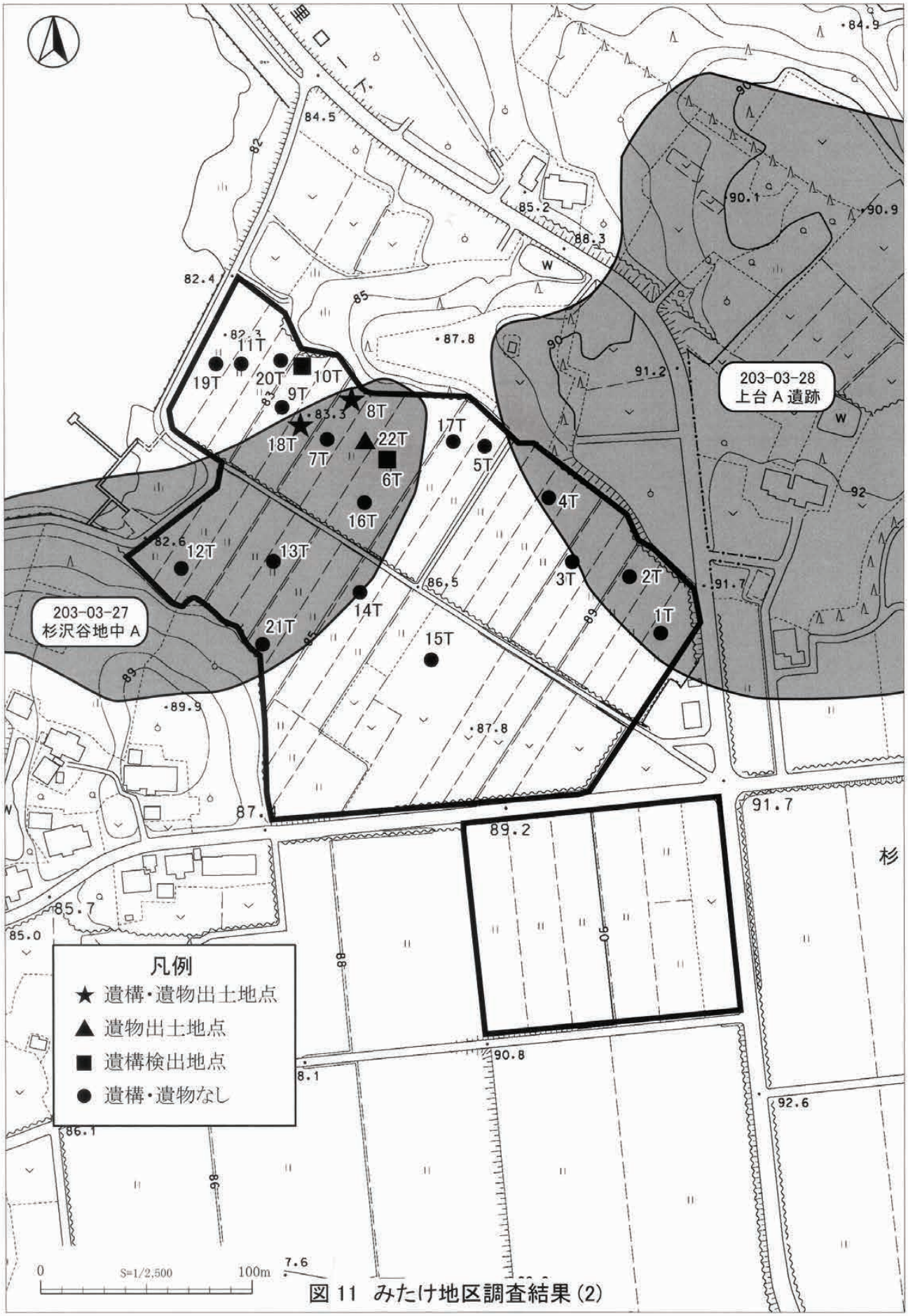


図 11 みたけ地区調査結果 (2)

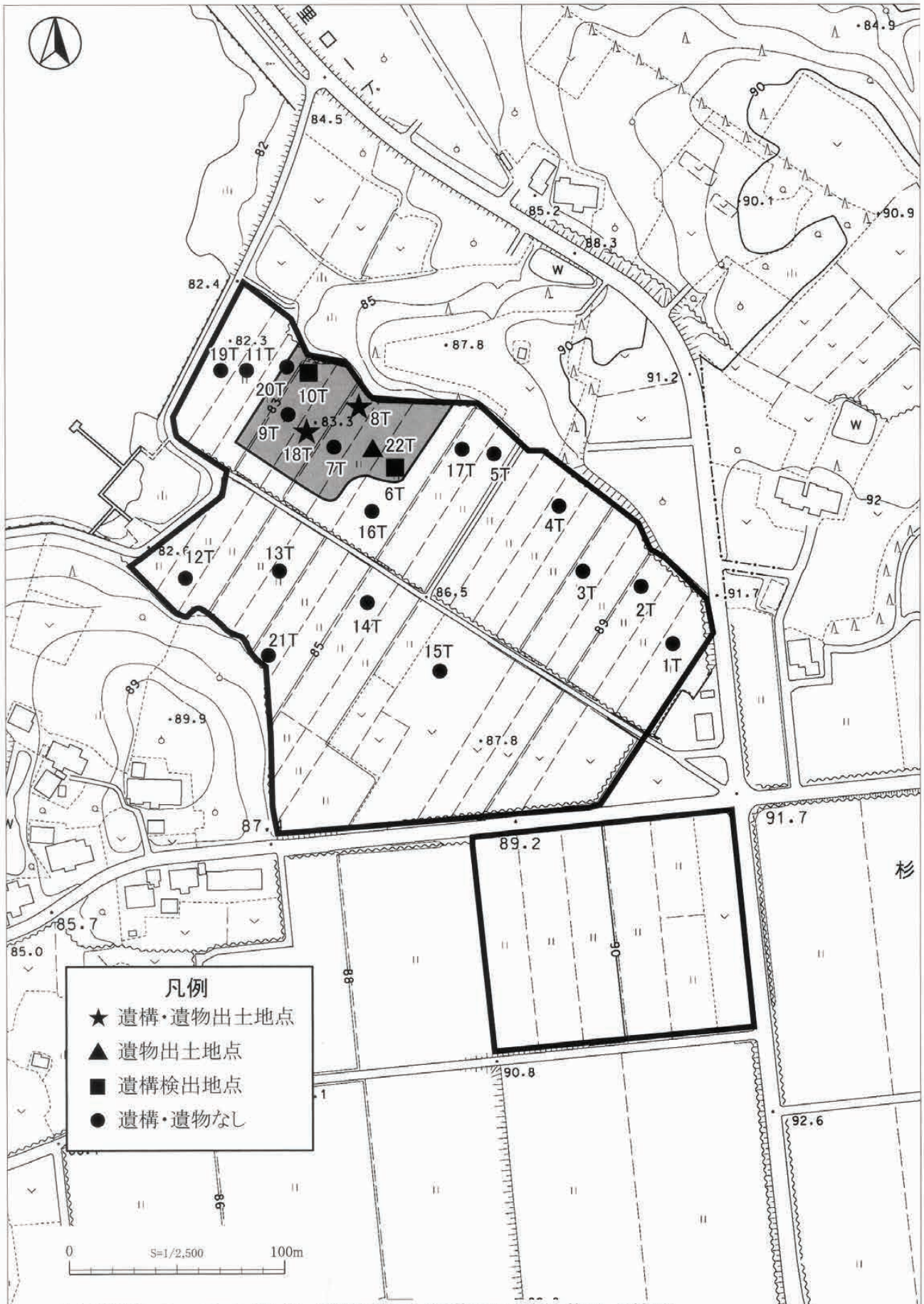


図 12 確認された埋蔵文化財包蔵地の範囲

図 13　みたけ地区調査区内の遺跡の概要

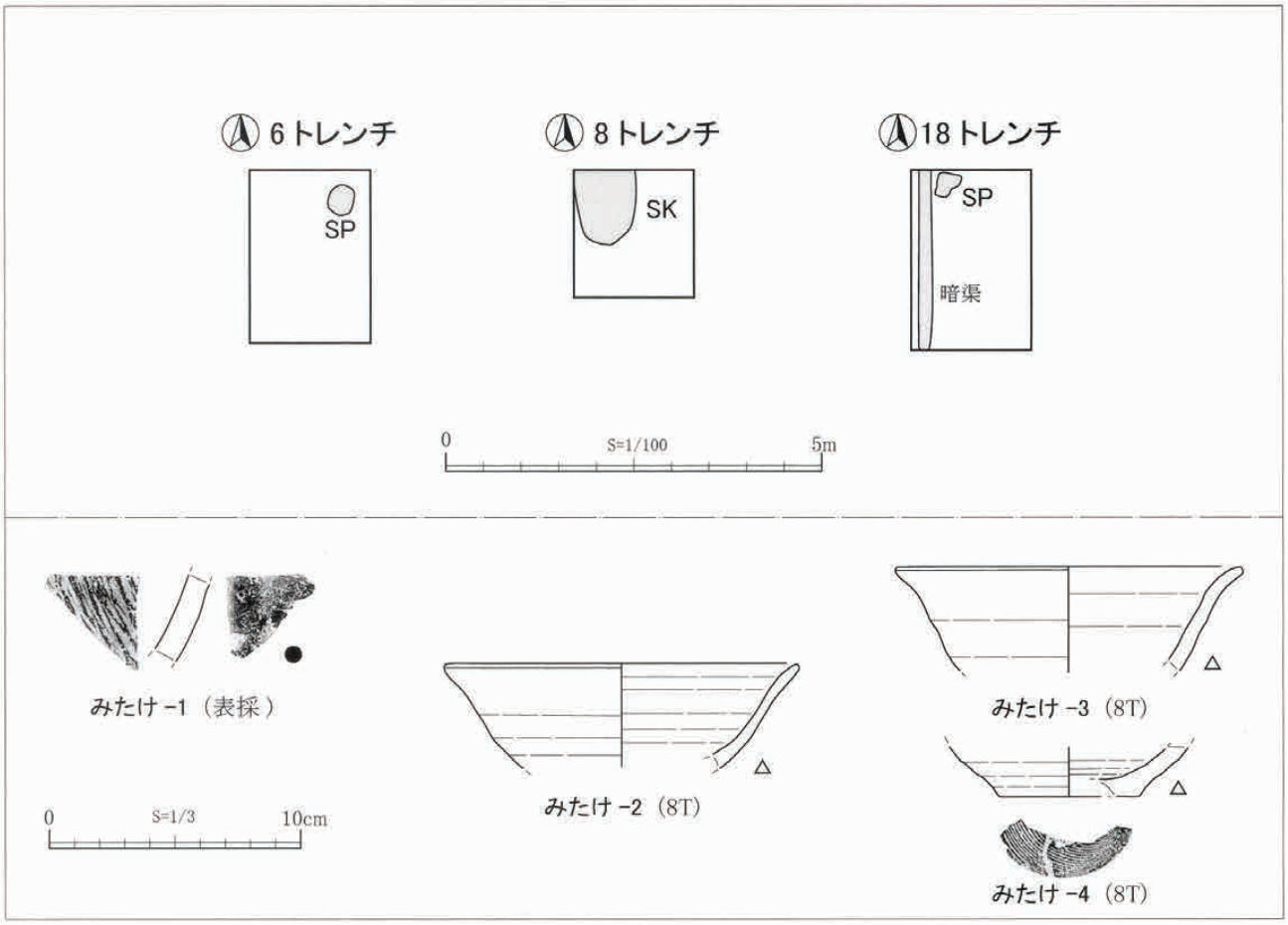


図 14 みたけ地区検出遺構確認図及び出土遺物

表 6 みたけ地区出土遺物観察表

※(口)→口縁部・底部・(底)→底部・(胴)→胴部・(体)→体部
(内)→内面・(外)→外面

遺物No.	トレンチ	層位	種別	器種	残存	調整			口径	底径	器高	色調	備考
						外面	内面	底面					
みたけ-1	-	表採	須恵器	甕	(胴)破片	平行タタキメ	不明	-	-	-	-	(外)にぶい黄橙 (内)にぶい黄橙	
みたけ-2	8T	②-2	ロクロ土師器	杯	(口)破片	ロクロナデ	ロクロナデ	-	(14.3)	-	-	(外)橙 (内)浅黄橙	
みたけ-3	8T	②-2	ロクロ土師器	杯	(口)1/5	ロクロナデ	ロクロナデ	-	(14.1)	-	-	(外)にぶい橙 (内)浅黄橙	
みたけ-4	8T	-	ロクロ土師器	杯	(底)1/3	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り(右)	-	(5.1)	-	(外)浅黄橙 (内)にぶい橙	

表7 みたけ地区試掘トレンチ一覧

試掘トレンチ番号	調査日	試掘調査規模				土層堆積状況（cm）								検出遺構	出土遺物	備考
						人為堆積			自然堆積							
						Ⅰ	Ⅱ									
		幅（m）	長さ（m）	面積（㎡）	深さ（m）	耕作土	造成土	計	湿地堆積層	黄褐色粘土	黄褐色シルト混じり粘土	礫混じり粘土	黄褐色シルト混じり砂			
1	11/19	1.6	2.7	4.3	0.71	36	13	49	22	0						
2	11/19	1.6	4.0	6.4	0.57	20	15	35	22		0					
3	11/19	1.6	3.5	5.6	0.30	16	14	30				0				
4	11/19	1.6	2.5	4.0	0.45	20	22	42			3					
5	11/19	1.6	2.1	3.4	0.50	19	21	40	10							
6	11/19	1.6	2.3	3.7	0.40	20	20	40				0		柱穴1		
7	11/19	1.6	1.8	2.9	0.30	20	0	20				10				
8	11/19	1.6	1.7	2.7	0.13	13	0	13		0				土坑1	土師器	
9	11/19	1.6	3.8	6.1	0.15	15	0	15		0						
10	11/19	1.6	4.2	6.7	0.20	20	0	20			0			柱穴1		
11	11/19	1.6	6.9	11.0	0.25	20	0	20		5						
12	11/19	1.6	3.1	5.0	0.32	20	9	29				3				
13	11/19	1.6	1.8	2.9	0.35	15	0	15	20	0						
14	11/19	1.6	2.1	3.4	0.45	20	0	20	25							
15	11/19	1.6	3.0	4.8	0.05	5	0	5		0						
16	11/20	1.6	2.1	3.4	0.50	30	20	50		0						
17	11/20	1.6	2.2	3.5	0.43	23	20	43		0						
18	11/20	1.6	2.4	3.8	0.15	15	0	15			0			柱穴1	土師器	
19	11/20	1.6	2.6	4.2	0.37	18	0	18	19		5					
20	11/20	1.6	5.7	9.1	0.27	27	0	27			5					
21	11/20	1.6	2.3	3.7	0.45	20	0	20	25							
22	11/20	1.6	4.7	7.5	0.20	20	0	20			7				土師器	
23	11/21	1.2	2.0	2.4	0.46	13	0	13	33							風化礫が混じる
24	11/21	1.2	1.8	2.2	0.42	15	20	35					7			
25	11/21	1.2	2.8	3.4	0.50	25	0	25			20		5			
26	11/21	1.2	1.8	2.2	0.55	25	30	55								
調査面積		118.1 ㎡														

Ⅲ　横手市雄物川地域　沼館城跡の試掘・確認調査

1. 立地と環境

沼館城跡は、横手市役所雄物川地域局から北西約800mに位置する。現況は、平成27年(2015)の横手市立雄物川小学校の開校に伴い閉校となった旧横手市立雄物川北小学校の学校用地である。今回の調査は、当該校舎等の解体に伴い、地下の埋蔵文化財包蔵地に与える影響の有無を確認する目的で実施した。

沼館城跡は、旧皆瀬川によって形成された砂礫段丘Ⅳに立地する。城跡の西側は現在の雄物川が形成した砂礫段丘Ⅴが広がり、城跡とは比高差がある。沼館城跡は中世城館として周知されており、戦国大名小野寺稙道の居城として知られている。小野寺稙道は、当初本拠とした湯沢市稲庭城から横手盆地進出により沼館城を本拠とするが、天文年間のいわゆる「平城の乱」によって湯沢市湯沢城にて討死しているため、沼館城が本拠とされたのはごく一時期と考えられる。現況の地表面では、小野寺氏によって構築されたと考えられる土塁が巡る。現在学校用地となっている範囲は、横手市教育委員会が過去に実施した縄張り調査によって上級家臣の居住した「二の丸」であったと考えられている。また、沼館城跡は後三年合戦(1083～1087)の際に登場する沼柵推定地のひとつでもある。

旧横手市立雄物川北小学校敷地の周囲には前述のとおり土塁が巡る。また、敷地はほぼ中央を横断するU字側溝を境にグラウンドとなっている北側と、校舎などが存在する南側に分けられ、南側がやや高くなっている。

2. 調査の結果【図17～19】

試掘トレンチは4ヶ所、調査面積は41.05㎡である。以下で、トレンチごとに調査結果をまとめる。

1トレンチ

現在のグラウンド南側にL字状に設定した。トレンチの面積は14.45㎡である。

調査区内の基本層序は以下のとおりである。

Ⅰ層：砂混じり暗褐色シルト　しまり中　粘性弱　層厚20cm グラウンド造成土

Ⅱ層：シルト混じり黄褐色粘土　しまり強　粘性中　層厚50cm　自然堆積層

Ⅲ層：シルト混じり黒褐色粘土　しまり強　粘性中　層厚20cm以上　自然堆積層

当該トレンチのⅡ層上面から、柱穴4基、土坑4基、性格不明遺構1基を検出した。また、大部分は過去の土地造成により削平されていたが、トレンチの西側から炭化物・焼土を含む盛土整地層を検出した。出土遺物は、排土より須恵器系陶器片口鉢片1点が出土した。

2トレンチ

現在のプール西側に設定した。トレンチの面積は5.9㎡である。

調査区内の基本層序は以下のとおりである。

Ⅰ層：砂混じり黒褐色シルト　しまり弱　粘性弱　層厚10cm　表土

Ⅱ層：大礫混じり黄褐色粘土　しまり強　粘性中　層厚60cm以上　人為堆積層

表土を除去し、人為堆積層であるⅡ層を掘り下げたが、当該層が60cm以上堆積しており、検土杖によるハンドボーリングでもさらに50cm以上同一層が堆積していることが確認されたことから、掘り下げを中止した。

3トレンチ

現在の校舎(教室棟)南西側に設定した。トレンチの面積は5.9㎡である。

調査区内の基本層序は以下のとおりである。

Ⅰ層:砂混じり黒褐色シルト　しまり弱　粘性弱　層厚15cm　表土

Ⅱ層:大礫混じり黄褐色粘土　しまり強　粘性中　層厚20cm　人為堆積層

Ⅲ層:シルト混じり黒褐色粘土　しまり強　粘性中　層厚20cm以上　自然堆積層

当該トレンチのⅢ層上面から、土坑1基を検出したが、この土坑から江戸時代後期の白岩焼破片が出土しているため、近世の塵芥処理用土坑であると考えられる。また、トレンチの東側半分は校舎建設に伴う土地造成によりⅢ層が失われていた。

4トレンチ

現在の校舎(教室棟)南東側に設定した。トレンチの面積は14.8㎡である。

調査区内の基本層序は以下のとおりである。

Ⅰ層:砂混じり黒褐色シルト　しまり弱　粘性弱　層厚15cm　表土

Ⅱ層:大礫混じり黄褐色粘土　しまり強　粘性中　層厚10cm以上　人為堆積層

表土を除去し、人為堆積層であるⅡ層を掘り下げようと試みたが、Ⅱ層のしまりが強く、重機でも掘り下げることができなかった。検土杖によるハンドボーリングでは、少なくともさらに60cm以上は同一層が堆積していることを確認した。

3. 開発行為が埋蔵文化財包蔵地に与える影響【図19】

以上の結果から、現在のグラウンドの範囲には遺構・遺物の広がりが認められた一方、校舎が存在する範囲についてはこれまでの開発行為で地山面が大きく削平されており、遺構・遺物は消滅したと考えられる。この範囲を示したのが図19である。校舎の解体にあたっては、既に遺構が消滅した範囲にあたるため、埋蔵文化財包蔵地に与える影響が軽微であることから、特段の対応は不要と考えられる。しかし、校舎に沼館城跡の土塁が近接しているため、解体にあたっては土塁を破壊しないよう留意する必要がある。

遺構・遺物が認められたグラウンド側においては、既存の構造物がほとんど存在しないため、埋蔵文化財包蔵地が遺跡に与える影響が軽微であるが、グラウンド内に存在する遊具の撤去などに際しては、遺物を巻き上げる可能性があるため専門職員による立会を要すると考えられる。

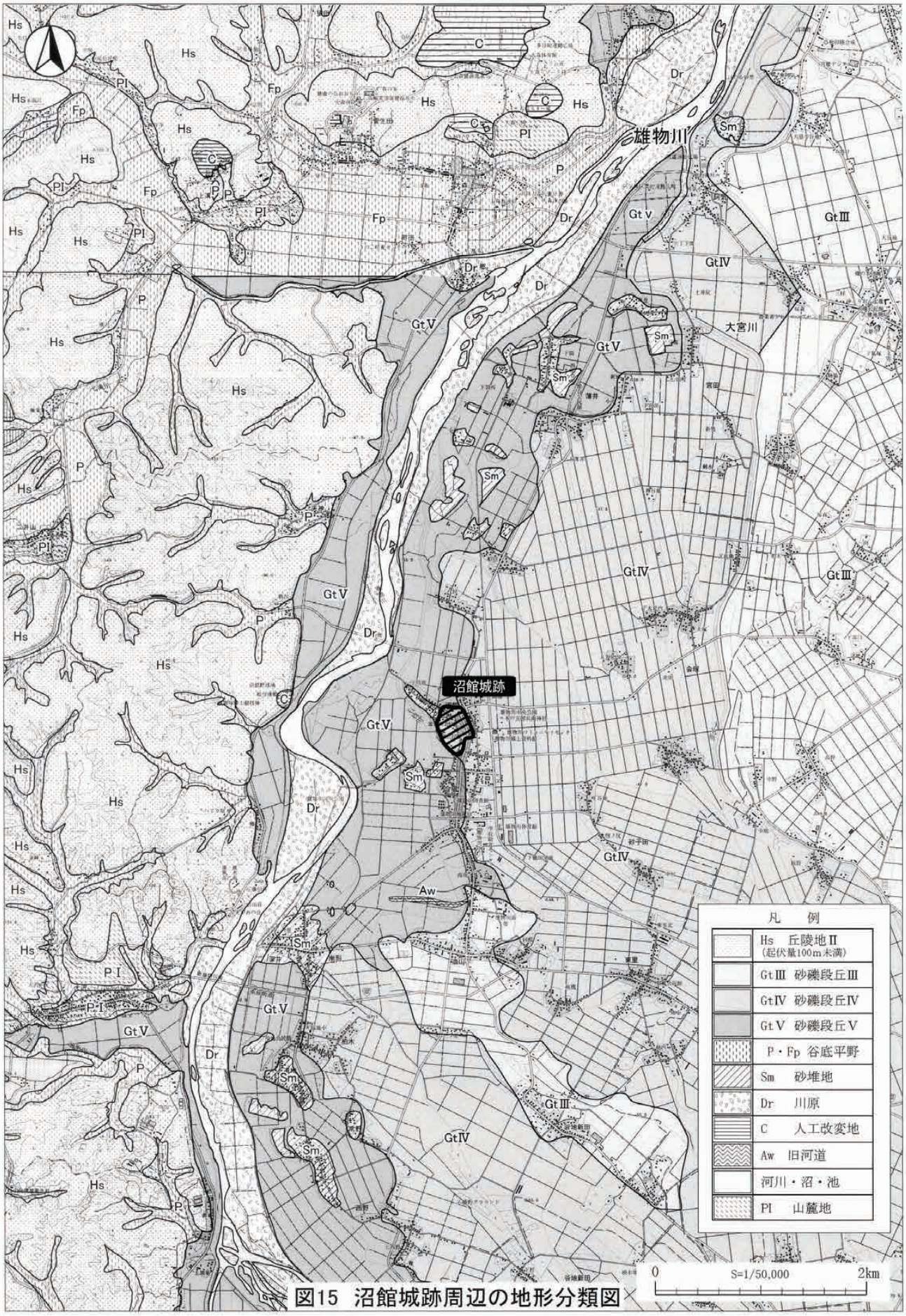


図15　沼館城跡周辺の地形分類図

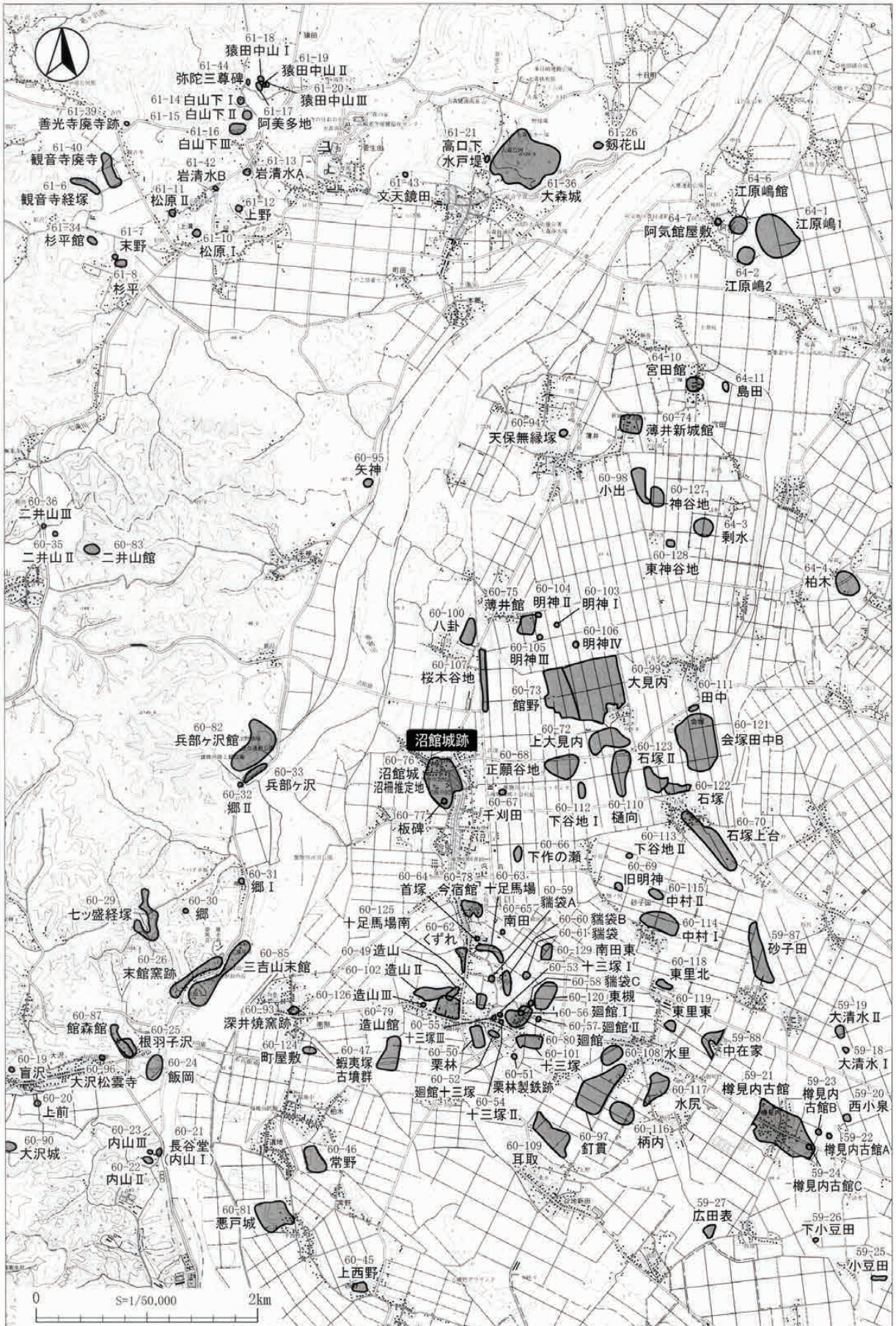


図 16　沼館城跡周辺の遺跡位置図

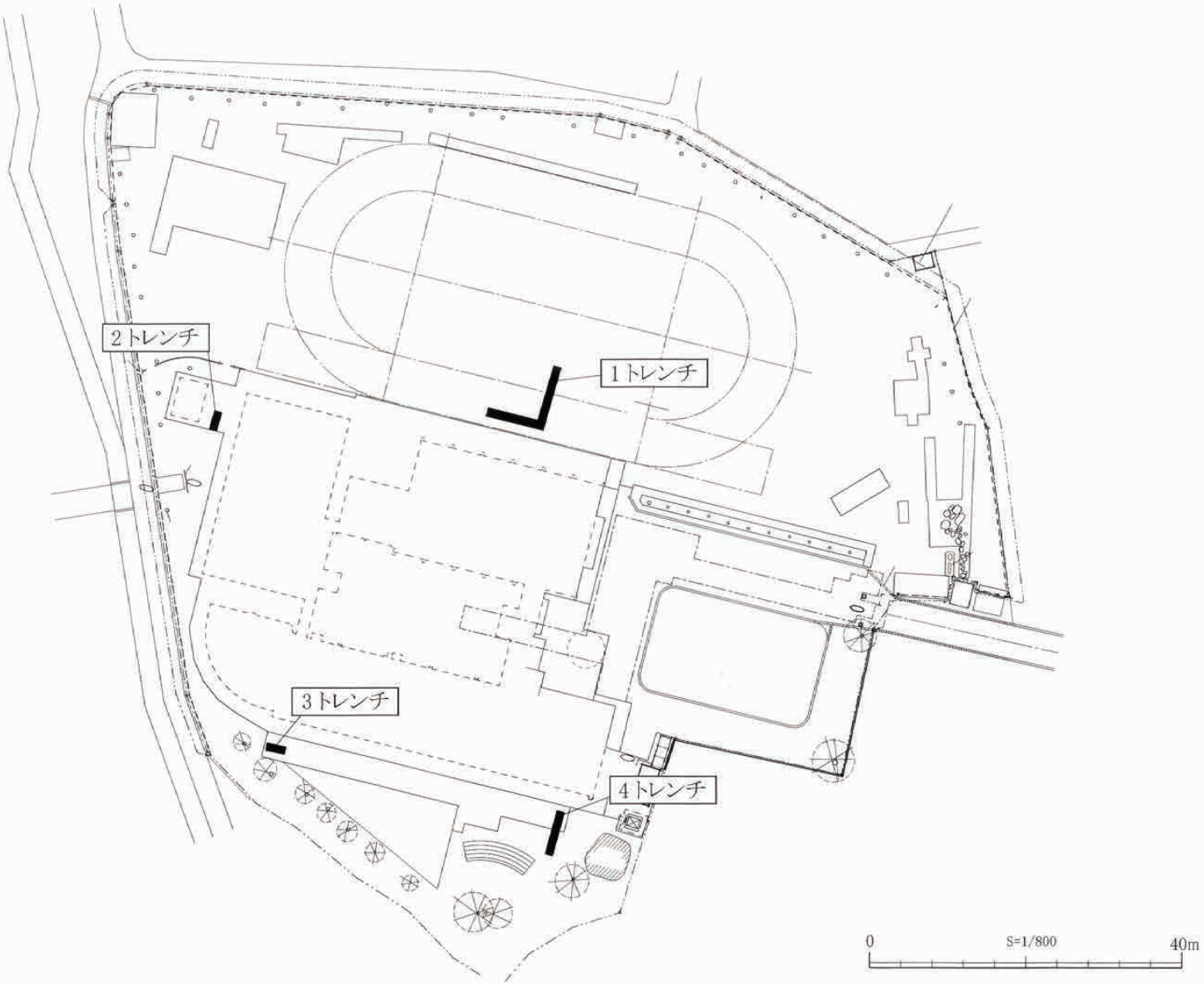


図 17　沼館城跡試掘トレンチ設定位置

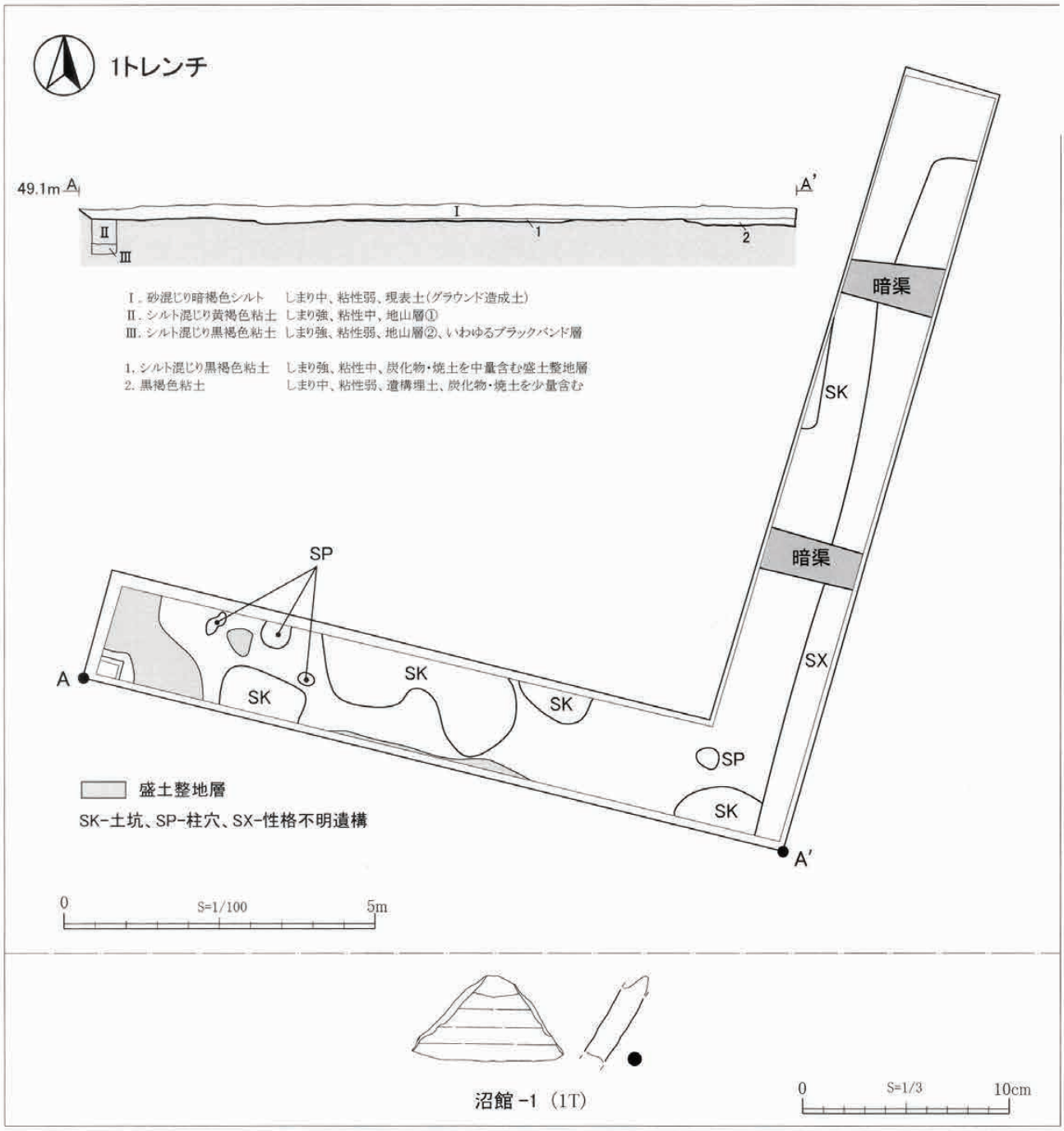


図 18 沼館地区検出遺構確認図及び出土遺物

表 8 沼館地区出土遺物観察表

※(胴)→胴部
(内)→内面・(外)→外面

遺物No.	トレンチ	層位	種別	器種	残存	調整			口径	底径	器高	色調	備考
						外面	内面	底面					
沼館-1	1T	-	須恵器	甕	(胴)破片	ロクロナデ	ロクロナデ	-	-	-	-	(外)灰 (内)灰	

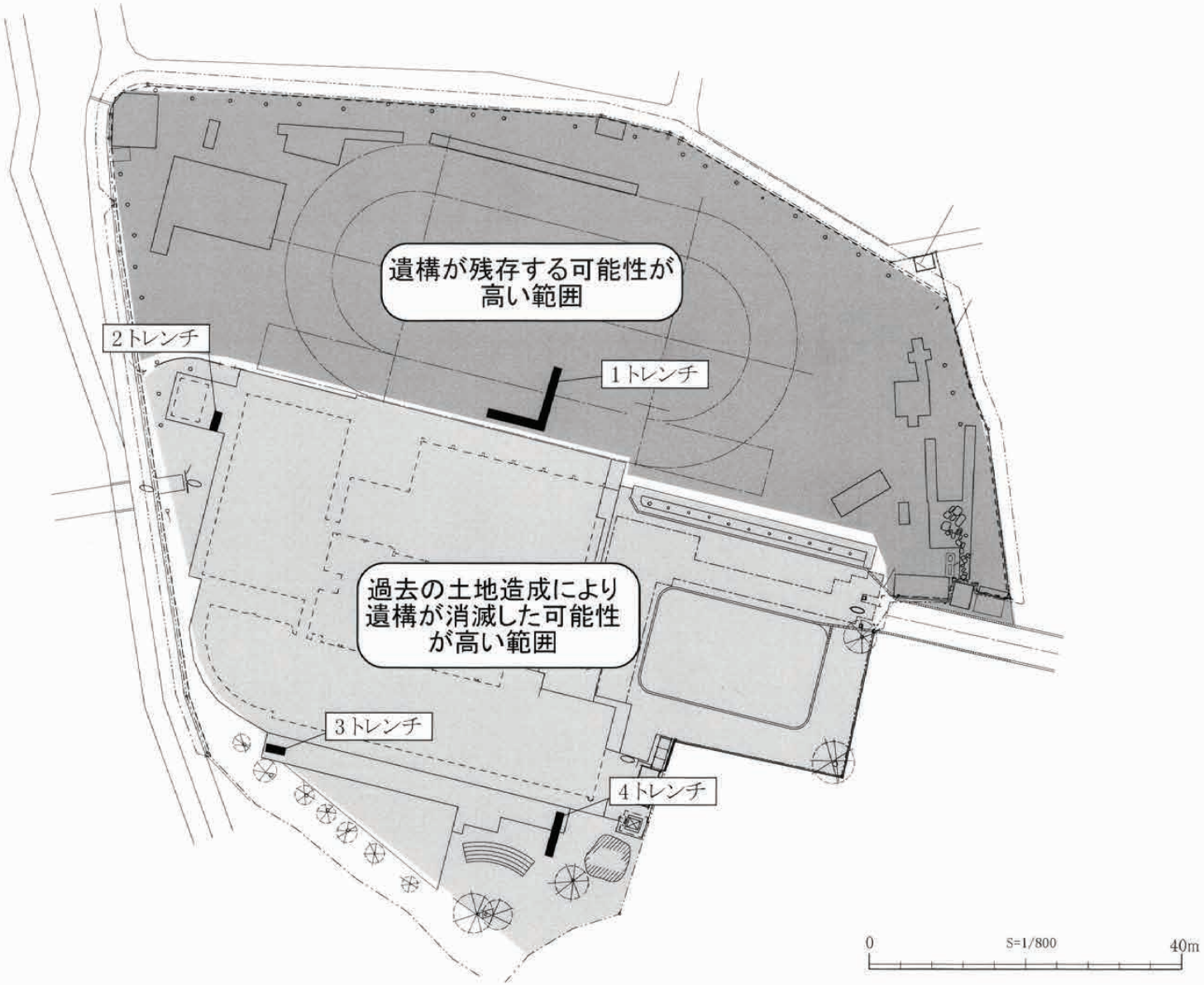


図 19 想定される遺構の残存状況

Ⅳ　平鹿町浅舞字諏訪野の分布調査【写真図版8】

1. 調査地点の位置と調査年月日

所在地：横手市平鹿町浅舞字諏訪野　地内　　調査日：令和6年8月15日

2. 立地と環境

調査地点の地形面は旧成瀬川によって形成された砂礫段丘Ⅲに分類される。現況は水田である。

3. 調査の方法・概要

1トレンチ

Ⅰ層：暗褐色粘土混じりシルト（耕作土層）　30cm

Ⅱ層：暗褐色粘土（水田床土層）　30cm

Ⅲ層：黄褐色シルト混じり粘土層（地山層）　0cm～

2トレンチ

Ⅰ層：暗褐色粘土混じりシルト（耕作土層）　20cm

Ⅱ層：黄褐色シルト混じり粘土層（地山層）　0cm～

宅地造成に伴い、開発予定地内の試掘調査を実施した。2箇所に幅1m、長さ1mの試掘坑を設定し、人力で掘り下げた。

土層の堆積は上から順に現在の耕作土層、水田土層、地山層の順で堆積している。地山面は現地表面から約20cmの深さで検出した。いずれのトレンチでも遺構・遺物はなく、地山面上層に旧表土層が存在しないことから、近現代の耕地整理によって大きく削平を受けたと考えられる。

4. 総括

当該開発予定地内に埋蔵文化財包蔵地は存在しないと判断する。

Ⅴ　条里制跡の試掘・確認調査【図20、写真図版8】

(1)住宅建築（赤坂字上後野）

1. 調査地点の位置と調査年月日

所在地：横手市赤坂字上後野　地内　　調査日：令和6年7月23日

2. 立地と環境

調査地点は頭無川から南約200mに位置し、地形面は旧成瀬川によって形成された砂礫段丘Ⅳに分類される。現況は宅地である。

3. 調査の方法・概要

基本層序

1トレンチ

Ⅰ層：暗褐色粘土混じりシルト（盛土層）　30cm

Ⅰ層：暗褐色粘土混じりシルト（盛土層）　30cm
Ⅱ層：黄褐色粘土層（地山層）　0cm～
2トレンチ
Ⅰ層：暗褐色粘土混じりシルト（盛土層）　40cm
Ⅱ層：黄褐色粘土層（地山層）　0cm～

住宅建築に伴い、開発予定地内の試掘調査を実施した。幅1m、長さ2mの試掘坑（1トレンチ）と幅1m、長さ1mの試掘坑(2トレンチ)を設定し、人力で掘り下げた。

土層の堆積は上から順に現在の盛土層、地山層の順で堆積している。地山面は現地表面から約30～40cmの深さで検出した。1トレンチでは、柱穴様ピット4基を検出した。当該遺構の年代は明確ではないが、地山層上面において肥前系磁器が出土していることと、検出された柱穴様ピットのうち同一建物を構成すると考えられるピット間の間隔が約1.65mであり、建物に採用された1間の実長が5.5尺であると考えられることから、近世以降の建物跡であると考えられる。

4. 総括

遺構・遺物を検出したが、近世に帰属するとみられることから、今回工事に対しては工事立会の対応が適当であると判断する。

(2)住宅建築（黒川字寺村）

1. 調査地点の位置と調査年月日

所在地：横手市黒川字寺村　地内　　調査日：令和6年8月21日

2. 立地と環境

調査地点は横手川から南約450mに位置し、地形面は旧成瀬川によって形成された砂礫段丘Ⅳに分類される。現況は畑地である。

3. 調査の方法・概要

基本層序
Ⅰ層：暗褐色シルト（耕作土層）　10cm
Ⅱ層：明褐色粘土層（盛土層）　35cm
Ⅲ層：黄褐色シルト混じり粘土層（地山層）　0cm～

住宅建築に伴い、開発予定地内の試掘調査を実施した。幅1m、長さ2mの試掘坑を設定し、人力で掘り下げた。

土層の堆積は上から順に現在の耕作土層、盛土層、地山層の順で堆積している。地山面は現地表面から45cmの深さで検出した。トレンチ内からは柱穴様ピット1基を検出したが、年代は不明である。

4. 総括

遺構を検出したが、住宅建築の際の掘削深度が遺構確認面に到達しないことから、今回工事に対しては工事立会の対応が適当であると判断する。

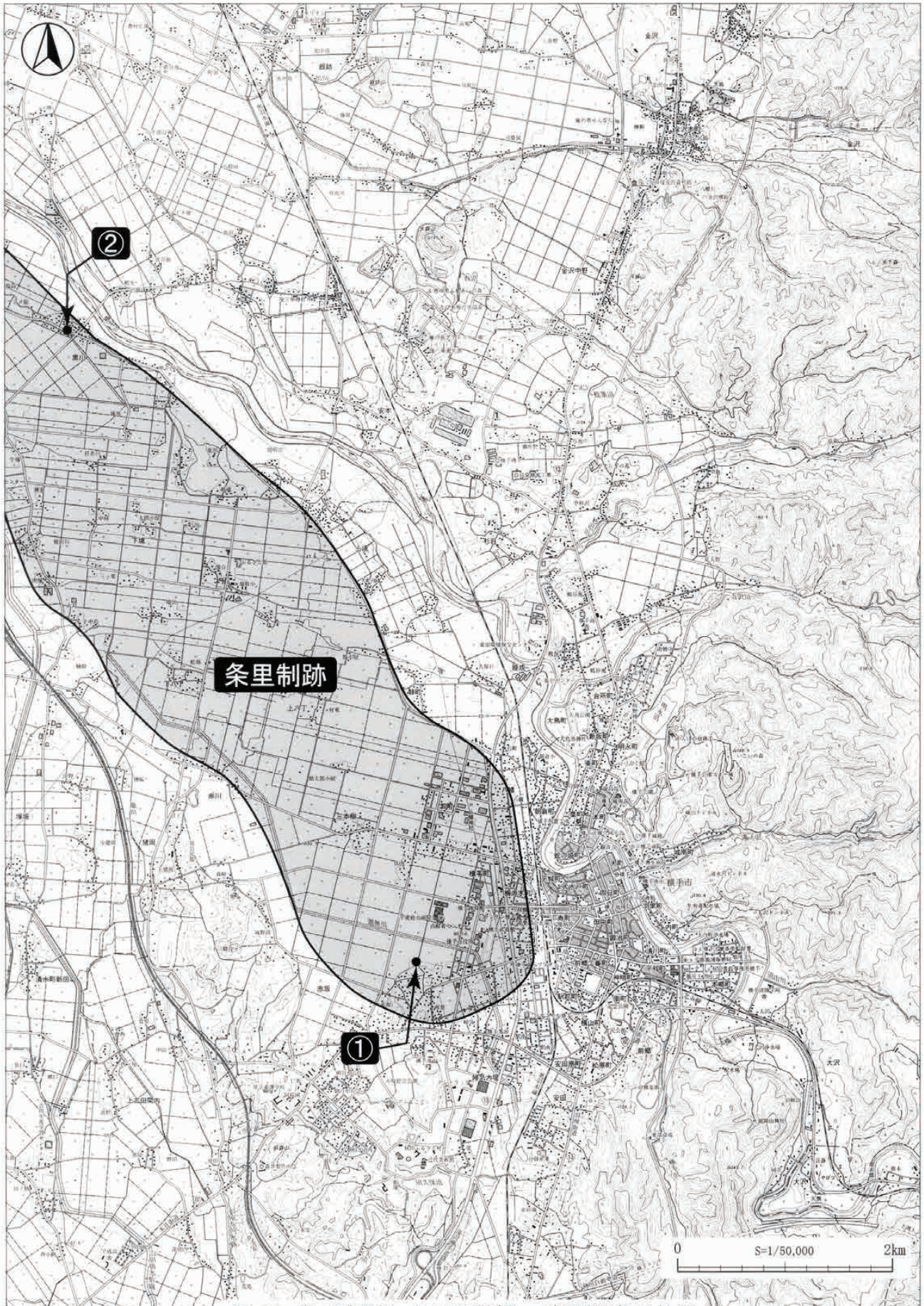


図 20 条里制跡における試掘・確認調査の位置

報告書抄録

ふりがな	いせきしょうさいぶんぷちょうさほうこくしょ
書名	遺跡詳細分布調査報告書
副書名	農地中間管理機構関連ほ場整備事業等に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	横手市文化財調査報告
シリーズ番号	第67集
編著者名	藤原正大
編集機関	横手市教育委員会教育総務部文化財保護課横手市遺跡調査事務所
所在地	〒013-0105 秋田県横手市平鹿町浅舞字釜池175番地
発行機関	横手市教育委員会
所在地	〒013-0060 秋田県横手市条里一丁目1番64号
発行年月日	西暦2025年3月31日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	°′″	°′″		(㎡)	
やがしわむらおもていせき 八柏村表遺跡	よこてし 横手市 たいゆうやがしわ 大雄八柏 あざむらおもて 字村表	203	64-12	39° 18′ 42″	140° 29′ 47″	20241105 ～ 20241113	試掘面積 628.5	農地中間管理機構関連ほ場整備事業
すぎさわやちなかしーいせき 杉沢谷地中C遺跡	よこてし 横手市 すぎさわあざやちなか 杉沢字谷地中	203	03-198	39° 21′ 21″	140° 34′ 07″	20241119 ～ 20241121	試掘面積 118.1	農地中間管理機構関連ほ場整備事業
ぬまだてじょうあと 沼館城跡	よこてし 横手市 おものがわまちぬまだて 雄物川町沼館 あざぬまだて 字沼館	203	60-76	39° 17′ 51″	140° 25′ 34″	20241214	試掘面積 41.1	旧小学校舎解体
じょうりせいあと 条里制跡	よこてし 横手市 あかさかあざかみうしろの 赤坂字上後野　外	203	03-130	39° 18′ 40″	140° 33′ 10″	20240723 20240821	試掘面積 5.0	住宅建築

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
八柏村表遺跡	集落跡	縄文 平安 中世	柱穴 土坑 溝跡	石器剥片、土師器 須恵器、陶器	新発見
杉沢谷地中C遺跡	集落跡	平安	柱穴 土坑	土師器	新発見
沼館城跡	館跡	平安 中世	土坑 柱穴 盛土整地	須恵器系陶器	
条里制跡	その他の遺跡	飛鳥 奈良	柱穴	磁器	

1948年(昭和23)空中写真[国土地理院]と現況図(赤い線)

写真図版 1　下吉田地区の空中写真

7トレンチ　遺構検出状況（北→）

7トレンチ　柱穴検出状況（南→）

7トレンチ　土層断面（西→）

9トレンチ　遺構検出状況（北→）

9トレンチ　土坑検出状況（西→）

9トレンチ　土層断面（西→）

10トレンチ　遺構検出状況（北→）

10トレンチ　土層断面（東→）

写真図版 2　下吉田地区（1）

12トレンチ　遺構検出状況(北→)

12トレンチ　柱穴検出状況(南→)

12トレンチ　土層断面(西→)

12トレンチ　土層断面(西→)

81トレンチ　遺構検出状況(南→)

81トレンチ　土坑検出状況(南東→)

81トレンチ　柱穴検出状況(南西→)

81トレンチ　土層断面(東→)

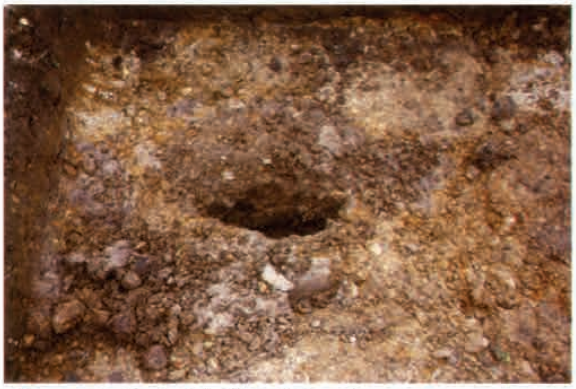
写真図版 3　下吉田地区 (2)

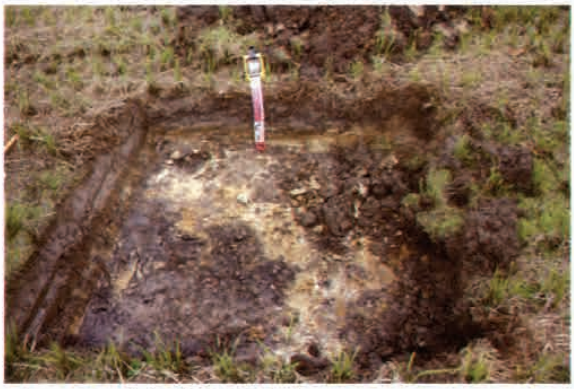
1948年(昭和23)空中写真[国土地理院]と現況図(赤い線)

写真図版 4　みたけ地区の空中写真

5トレンチ　遺構検出状況(北→)

6トレンチ　柱穴検出状況(西→)


6トレンチ　柱穴土層断面(西→)


8トレンチ　土層断面(西→)

8トレンチ　遺構検出状況(東→)

8トレンチ　遺物出土状況(東→)

10トレンチ　遺構検出状況(北→)

10トレンチ　柱穴検出状況(東→)

写真図版5　みたけ地区

1トレンチ西側　全景(西→)

1トレンチ西側　整地層　全景(南西→)

1トレンチ西側　土坑　遺構確認(南西→)

1トレンチ西側　土坑　遺構確認(南→)

1トレンチ北側　全景(南東→)

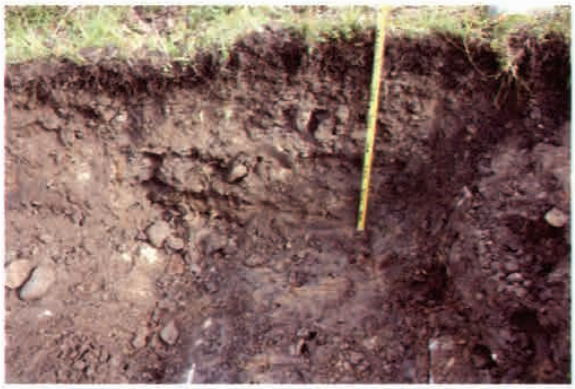
1トレンチ北側　土坑　遺構確認(東→)

1トレンチ　基本層序(北→)

1トレンチ　埋め戻し後(南西→)

写真図版 6　沼館城跡(1)

2トレンチ　全景(西→)


2トレンチ　土層断面(西→)

2トレンチ　埋め戻し後(南→)

3トレンチ　全景(西→)

3トレンチ　土層断面(北→)

3トレンチ　埋め戻し後(西→)

4トレンチ　土層断面(北西→)

4トレンチ　埋め戻し後(北→)

写真図版 7　沼館城跡 (2)

浅舞字諏訪野　1トレンチ　土層断面(北→)

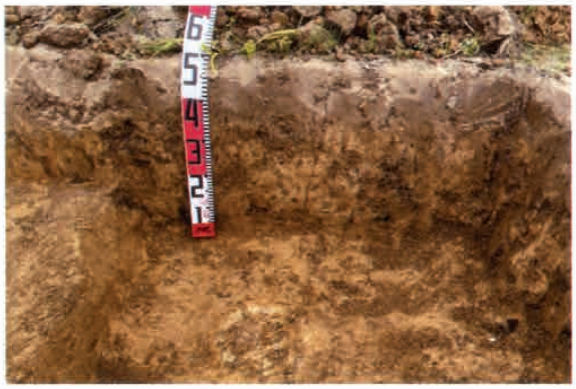
浅舞字諏訪野　2トレンチ　土層断面(北→)

赤坂字上後野　全景

赤坂字上後野　1トレンチ　全景(南→)

赤坂字上後野　2トレンチ　全景(東→)

黒川字寺村　全景(北西→)


黒川字寺村　1トレンチ　土層断面(東→)

黒川字寺村　1トレンチ　柱穴(南→)

写真図版8　その他民間開発

横手市文化財調査報告第67集

遺跡詳細分布調査報告書

-農地中間管理機構関連ほ場整備事業等に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-

印刷・発行　令和7年3月
編　　集　横手市教育委員会教育総務部
文化財保護課横手市遺跡調査事務所
〒013-0105 秋田県横手市平鹿町浅舞字釜池175番地
TEL 0182-24-3480　FAX 0182-24-3481
発　　行　横手市教育委員会
〒013-0060 秋田県横手市条里一丁目1番64号
TEL 0182-32-2403　FAX 0182-32-4034
印　　刷　有限会社　柏谷印刷